

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会

平成30年6月5日 午後3時30分～
庄内産業振興センター第1・第2会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 各専門委員会（第2回）における協議・意見内容について

4 協 議

(1) 本市の『目指す都市像とまちづくりの基本方針』の素案について

(2) その他

5 閉 会

資 料 一 覧

- 1 第3回鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会次第(裏面:資料一覧)
- 2 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員名簿(裏面:座席表)
- 3 資料

※本日配布資料

- 1) 鶴岡市総合計画審議会第2回厚生専門委員会
会議概要・着眼点に対する協議・意見内容 . . . 資料 1
- 2) 鶴岡市総合計画審議会第2回社会基盤専門委員会
会議概要 資料 2
- 3) 鶴岡市総合計画審議会第2回産業専門委員会
会議概要・着眼点に対する協議・意見内容 . . . 資料 3
- 4) 鶴岡市総合計画審議会第2回市民文教専門委員会
会議概要・着眼点に対する協議・意見内容 . . . 資料 4
- 5) 本市の『目指す都市像とまちづくりの基本方針』の素案
各委員が考案した『目指す都市像・まちづくりの基本方針』 資料 5

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 委員名簿

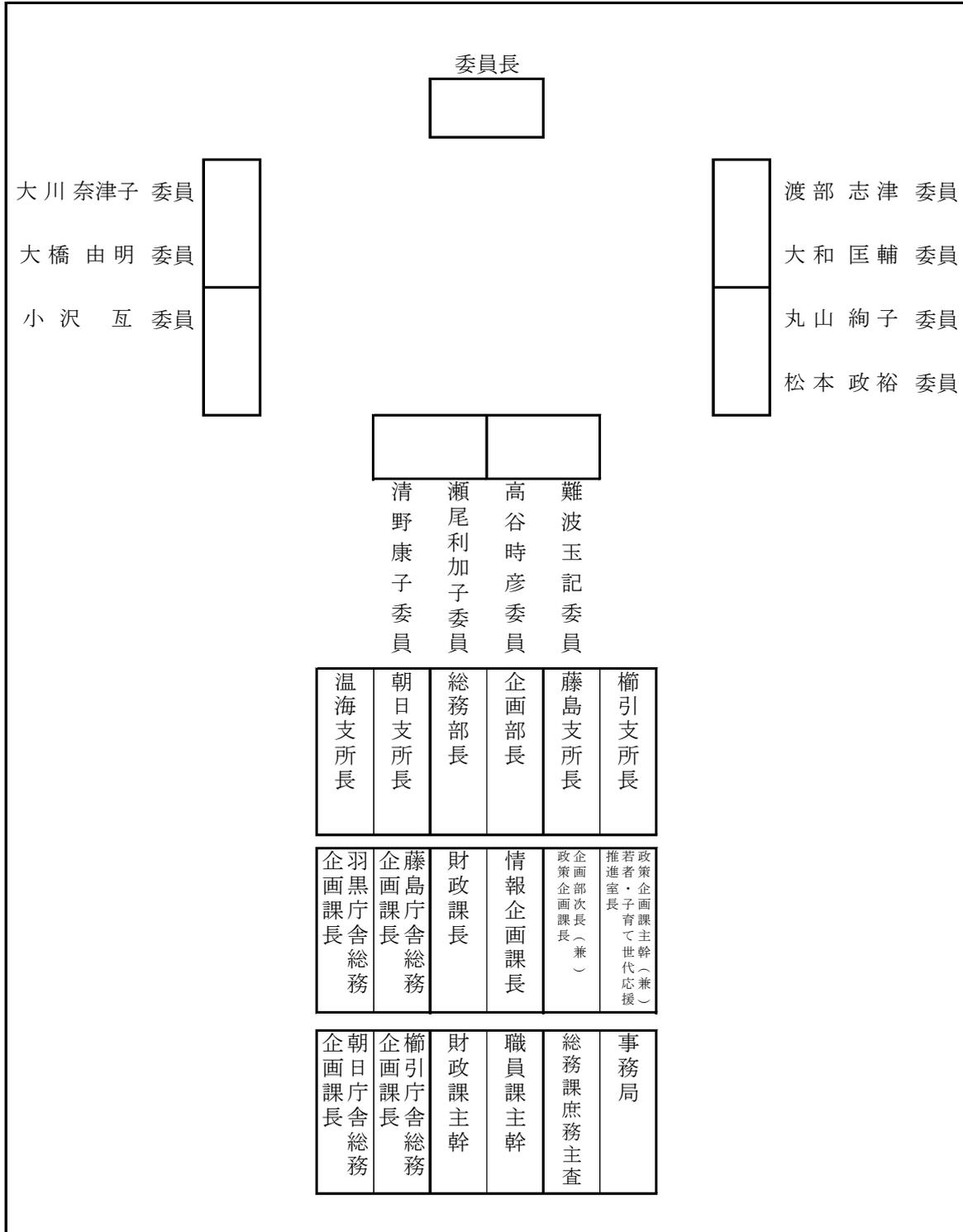
(五十音順、敬称略)

No.	氏 名	役 職 名 等
1	大 川 奈津子	主婦の店鶴岡店 代表取締役社長
2	大 橋 由 明	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ取締役 研究本部長
3	小 沢 互	産業専門委員会委員長
4	渋谷 広 之	連合鶴岡田川地域協議会 事務局長
5	鈴木 淳 士	市民文教専門委員会委員長
6	清 野 康 子	鶴岡市地域コミュニティ活性化委員会委員
7	瀬 尾 利加子	瀬尾医療連携事務所 代表取締役
8	平 智	山形大学農学部教授
9	高 谷 時 彦	社会基盤専門委員会委員長
10	難 波 玉 記	厚生専門委員会委員長
11	松 本 政 裕	生活協同組合共立社 代表理事・理事長
12	丸 山 絢 子	元鶴岡地域審議会委員
13	大 和 匡 輔	鶴岡織物工業協同組合理事
14	山 中 大 介	ヤマガタデザイン 代表取締役
15	渡 部 志 津	公益社団法人鶴岡青年会議所 監事

任期：平成30年2月1日～平成32年1月31日

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 座席表

30.6.5(火)
庄内産業振興センター 第1・第2研修室



鶴岡市総合計画審議会 第 2 回厚生専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成 30 年 5 月 18 日（金） 午後 2 時から
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター にこふる 大会議室
- 委員発言の概要

挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

- ・これから老老介護の時代に向かっていく中で、施設の充実ということを考え、介護休暇の普及を目指して欲しい。
- ・介護者のメンタルヘルスケア、老老介護、介護者の高齢化のなかで、サービス情報などが入りにくい状況になっているのではないかと。情報が介護者に上手く伝わっていくようにできればいい。
- ・項目として、環境の整備については文化面に着眼点を置かず、自然とか歴史に広げていった方がよい。
- ・環境について、学校教育等ではかなり取り組んでいるようだが、学校の児童生徒以外はどうなのか。そういう面では、価値のある人はいるかと思うが、全体的に見ると若干低いように思う。そんなことからもっと住人の関心を高めていかなければいけないと思う。結局は環境の整備に納得して良い方向に行くのではないかと。
- ・少子化対策として若い園長先生と話した中で都会では貧困家庭が多いと聞いている。鶴岡市には空き家が多いので、そこを利用して受け入れることはできないのか。鶴岡は都会と比べて物価も安く住みやすいという職場での意見があった。
- ・お互いに助け合って、力を合わせながら、男女共同参画社会を活発にして、女性の方の積極的な参画によって、人をひきつけて環境の整備をした方がいいのではないかと。
- ・何か新しいことに挑戦するには、今現在、これまでの過程を知ることが必要である。自分自身を振り返っても孫達に鶴岡の歴史を説明できるか疑問がある。それを学校にお願いするのは無責任かもしれないが、是非、学校等で鶴岡の素晴らしさを子供たちに教える。それに対し活動できるカリキュラムがあったらいいのではないかと。
- ・鶴岡は、最低賃金が低い。良い仕事をする、良い地域をつかっていくにはそこに住む生活者を大切にしていく必要がある。そのためにも、基本となる給与の見直しが必要になる。
- ・何か困ったときに相談できる所が、今いろいろ求められている。病院に限らず、市役所や各地域庁舎でも窓口に来た人にきちんと説明・相談できる環境を強化してほしい。そのための人材育成もしてほしい。
- ・専門職が挑戦できる医療、介護、保育施設を展開すればいいのではないかと。そこで働きたいと思える病院、施設があればいい。

- ・とがった施設があれば、そこに「視察」が来ると思うし、交流人口の拡大にもつながる。とがった特徴をもつヘルスケアの拠点をつくるといったイメージだ。
- ・挑戦できる人をひきつけるようなとがった事業を行えばいいのではないか。
- ・ヘルスケアからまちづくりまで、ごちゃまぜのイメージである。
- ・子供の医療費を無料にするなど市が子どもにお金をかけることは、将来的にはその子供たちが全国各地に観光大使として羽ばたき、投資にも繋がるのではないか。
- ・先端研などあのような元気なところの全体像をもっと市民に詳しく青写真を説明すべきではないか。公開すれば、今の若いひと達が夢と希望を持てる気がする。
- ・鶴岡を訪れる観光客が増えている。誰でもわかるような観光資料とか、そういうものを取り付けるといった配慮が必要。これに限らず、市では色々な形で周知していると思うが、周知の仕方が良くない。改善されればありがたいと思う。

人づくりによる人材の確保

- ・介護士・保育士・医師等の人材不足ということで、これらの人材を確保するために、地元でこれらの職に就くことを条件として、奨学金免除制度の導入などを取り入れている県があると聞いたので、そういったことに少し興味を持った。
- ・人材の確保ができればいいのだが、最近では確保することが中々困難である。
- ・人によっては、様々な役職を兼務しているが1つや2つではなく、3つ4つとどんどん増えていく。これでは、本人もそうだがこれから大変な時代を迎えていく。
- ・人材（役員等）の負担軽減の見直しを行っていかなければならない。具体的にどういう手だてがあるのかわからないが、それを乗り越えなければ難しいのではないか。
- ・人材確保の課題としては、保育士の質と向上。処遇改善は、国でも進めているが、まだまだだと思う。
- ・子どもがなりたい職業のナンバー3に保育士がなっているものの、このままでは現実には厳しいと思う。
- ・先日、職場体験に来た中学生たちに「保育園のこと覚えていますか」と聞いたら、少ししか覚えていないということで、その当時というか保育園にいた時に保育士が手厚く接していれば、なりたい職業になっていたと思うが、大きくなるにつれてそれが多分変わってくると思う。
- ・保育園に勤務する従事者の保育士資格取得の支援拡充について、現在も支援を頂いている訳だが、それ以上の拡充と対象になる職員の拡大をお願いしたい。
- ・元気高齢者、核家族など、共働き、放課後に児童に手や目が行き届かない家庭が多いと思う。元気高齢者たちと一緒に憩える場所を提供してやることで、子どもたちに文化的な習い事を教えてやることもできるのではないか。
- ・そういったことをしていれば地域に育てられた恩で故郷を大切に思うのではないか。
- ・これからの10年を見据え、現状は、核家族化の進展、生活環境の変化、世代間の価値観

値感の相違の拡大など、家族の絆が弱まっている。また、地域では人と人のつながりが薄くなって意識が低下している。

- ・地域福祉活動の担い手を確保して育成すること。高齢者が元気で医者にかからないような生きがいつくり、健康づくりとともに、学生・生徒など若い世代が地域公益活動に参加してもらいたい。

- ・こころのもち方が大切だ。こころの健康づくりに向けた関係機関のネットワーク化により、心を育てるということをしていただきたい。

- ・全市的に保健・医療・福祉・介護・保育等における専門職の「実習」の積極的な受入強化をすればいいのではないか。

- ・全国の専門学校や大学に鶴岡の施設での実習を促す宣伝、営業をかける。

- ・市をあげて各種専門職の実習受け入れを行う。仮に全国から来るのであれば、旅費、宿泊費、滞在費等を支援できればなお良い。人づくり、人材確保にも繋がるし、交流人口の拡大にも関わる。実習がきっかけで鶴岡に就職ということも期待できる。

- ・現状、「実習」はそれぞれの事業所、機関に委ねられており、実習を断っているところもある。後継者の育成にも繋がるのに本当にそれでいいのかと思う。

交流人口を増やす施策の実施

- ・少子化対策、社会全体の取組みとして、市民的な理解と触れ合いを持って家庭を支援して行ってほしい。

- ・出会いの場となるようなイベントを拡大していただき、婚活さえしない人向けだったり、交流を広げるきっかけを作ってほしい。

- ・若い層を引っ張り込めるようなイベント、楽しめるようなイベントで出会いの場となるようにしていただければありがたい。

- ・あらゆる年代の方々が活動に参画しやすい仕組みをつくり、それぞれの地域課題に活用できる社会資源を横断的に有効活用していただきたい。

- ・CCRCによる中高年の移住も考えられるのではないか。

- ・鳥取県は移住者が非常に多い、なぜ移住者が多いかというと、ここに来ると安心して子供を育てられるという支援が非常に充実している。是非、鳥取県に行って見てきたらどうか。

若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

- ・不妊治療のイメージを市民全体で変えていくという視点に目を向けてみた。まだまだ閉ざされた中で不妊治療をしていく人達の気持ちに少しずつ寄り添っていきたい、そういった雰囲気まち全体で作っていただければいいと感じる。

- ・お母さん自身が病気になった時に、どうしても簡単に子供を預けられず、医療機関を受診すること、健診に行くことが難しいといったことを聞くことが多い。市全体でそう

いったところにも応援、環境を整備いただけたら子育てしやすいまちに繋がっていくのではないかと。

- ・保育サービスの充実、保育園の充実、子育て家族の相談支援の充実、というところでは現在も手厚くしているとは思いますが、今の保護者の方たちの要望に応える仕組みづくりがあればよろしいかと思う。

- ・現状は、人口減少や少子高齢化、過疎化、孤立化が進行している。社会においては身近な地域での支え合いの仕組みづくりが大切。子どもの育ちや子育ての支援もしかり。

- ・社会活動においては、差別や偏見のない心のバリアフリーを幼児教育からしていただくことを願う。お年寄りの介護予防への支援、環境づくりをしてほしい。

- ・最近さまざまな情報を周知する場面で、SNSとかホームページをご覧くださいという言葉が非常に多く取り入れられている気がする。高齢者は、SNSとかホームページとか言われてもわからない、もう少し高齢者にふさわしいような配慮をしてはどうか。

- ・特定不妊治療については、職場の中にも不妊治療している方が何名かいる。そして、独身者もいる。子どもができない職員もいる。里親制度を利用した職員もいる。やはり、保険適用にならないものかと、そして職場の協力が不可欠だと思う。

内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

- ・健康寿命を延ばしてゆくことに力を入れていく。

- ・鶴岡は冬期間が長く、外で活動するのが難しいというイメージをもたれているが、簡単に運動できるような気軽さを、もう少しイメージ付けられればいいのではないかと。

- ・伝統文化の担い手を育成し、鶴岡市の文化資源について、市民自らが文化を理解し、後世に継承できるような活動の支援をしていただきたい。

- ・市民全体、市民主体の芸術活動を促進していただきたい。

- ・医療、介護、保育従事者のワークライフバランスを支援することが必須と考える。鶴岡の病院等で働くこんな良いことがあるということを見せていくイメージだ。

- ・子供たちに地元の歴史や文化を伝える、郊外学習や地元の公民館などでそのような講座を開設してはどうか。

- ・子供たちに郷土愛を伝えたり、地元の歴史や文化を知ってもらうため、例えば、致道博物館の入場料を小中学生無料としてはどうか。

- ・観光施設等で鶴岡市の小・中学生は無料とすれば、観光客は市民が大切にされているまちなんだと感じると思う。

「循環」をキーワードとして重視

- ・廃棄物対策について申し上げたい。不法投棄あるいは不正処理の問題について新聞等で報道されているが、市内についても報道されたことがあるが、そういった問題について、私どもは環境にやさしいスタイルということで可能な範囲で畑などに埋め立てるな

ど、可能な範囲で処理したほうがいいのではないかと。

- ・私ども個人的、あるいは社会的な努力を重ねていかないとこの問題は解決に至らないと思う。

- ・行政でも再資源化、再利用の推進をしている訳だが、それはそれとして進んでいるようなので心配はないと思う。

- ・自然に返すというような、いわゆる循環型の社会というのをやっていたからそんなに問題にならなかった。

- ・温室効果ガスの削減に向けた取組として、地球温暖化対策への意識の向上を図ること。子育てがしやすい地球環境の整備を考えていただきたい。

- ・専門職の「実習」をキーワード、接点として、教育と現場の後継者育成の循環をつくる。実習受入態勢の強化というようなキーワードはどうか。

- ・高齢者や働きたいけど働けないという主婦層の方々の活躍の機会創出で、地域の経済生産性が高まるのではないかと。

対応から本格的国際都市への移行

- ・人口減少や高齢化がこれから急速に進む。医療・介護など切れ目のないサービスが将来にわたり求められてくる。それ故に高度医療、地域内医療、介護などの関係団体が情報を共有し、患者サービスの向上を図っていただきたい。

- ・先端研によるヘルスケア関連の国際会議の拡充。ヘルスケア分野でとがった活動を行う中で、宿泊施設の問題、アテンド、市民の語学力を全市的に高めていくというイメージだ。

コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現

- ・仕事と子育ての両立支援、子育てしながらの就職活動の難しさをよく聞く。

- ・就職面接する際に子どもの預け先がない、スーツがないとの声もある。そういったことに対して支援があるとお母さんたちも就職活動に出向きやすくなるのではないかと。

- ・仕事が決まらないと、どうしても保育園の優先順位が後回しになるため、なかなか復職しにくいという状況がある。

- ・仕事と子育ての両立支援、ワークライフバランスは生活の充実において仕事はかどりに上手いく。仕事が上手いけば私生活も潤うというところで、今の企業の考え方は職場優先ではないか。この職場優先の考え方を変えなければ、両立は困難ではないか。例えば、がん治療のながらワーカー支援もしているが、そのようなことや不妊治療、休みがとりづらく断念する人も多い。子どもの看護、育休、産休に対する配慮が充実している訳ではない。

- ・鶴岡市の遺産である食・文化・健康の3要素における観光資源を活用して、市域を超えた広域観光の強化を図っていったらよいのではないかと。

・朝日地域でやっているような小さな拠点が必要ではないか。中山間地域に限らず、地域運営組織の法人化する。高齢者が農産物の加工をして「みちの駅」で売るといったような事業型地域運営組織のようなイメージだ。

オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

・とがった、全国に模範となる、例がないような医療、介護事業所をつくることができればいいのではないか。

その他、新たな項目の追加

- ・「若者が戻ってきたいくなる地域づくり」という視点があってもいいのではないか。
- ・「市民所得の維持・向上」、経済の域内循環を高めるような施策の方向も考えられるのではないか。
- ・総合計画がもう少し市民寄りになることが必要ではないか。
- ・市民の意識が総合計画の主体者、実施者となるようにすべきではないか。新たな項目として、「市民一人ひとりの未来に対する主体的意識の醸成」ということが考えられる。
- ・総合計画を他人ごとにせず、自分ごととしてとらえ、鶴岡のこれから、自分のこれからを主体的に考えることのできる市民の育成が必要である。
- ・市がやってくれるんだということではなく、あなたがやるんです。私がやるんですという意識に市民がならないといけない。
- ・障害者スポーツについての記述があれば良いのかと思う。パラリンピックもあるし、障害者スポーツ施設を充実したら良い。例えば、小真木の運動施設の無料化、いつでもスポーツができるような体制の整備が必要ではないかと思う。
- ・過疎地、交通弱者等の視点から移動式診療所とか移動スーパー等も考えてはどうか。

これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する
厚生専門委員会での協議・意見

項目 ○挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海沿岸東北自動車道のミッシングリンク区間があり、環境整備されていない。 ・子育てにお金がかかりすぎている。 ・都会の貧困家庭を受け入れる体制が整っていない。 ・地元の自然、歴史、文化等について知らないことが多く、関心が十分でないため、引きつけることが出来ない。 ・介護施設が不足している。 ・介護職の精神的負担が多く、メンタルヘルスケアが必要であり、仕事の魅力で人を引きつけられない。 ・介護者の高齢化による問題の、色々な環境の整備が出来ていない。 ・最低賃金が低すぎて、環境の整備が出来ていない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・高速交通網の整備促進、早期実現により、流通の活性化を図る。 ・介護休暇の取得普及を図り、地域全体で老々介護の対策を図る。 ・男女共同参画社会を活発にし、女性の積極的な参画を求める。 ・少子高齢化対策を重要な事項と捉え、第2子、第3子に対し、すべての費用を市で軽減又は無料とし、子育てしやすい環境を整備する。 ・貧困対策として、市内の空き家を活用し受け入れる。 ・小中高生から郷土について学ぶ機会をもち、大人についても郷土愛を育み、鶴岡に残ってもらえるよう、また、他に行っても情報発信してもらえようにする。 ・介護サービス等の情報提供の強化を図り、市民全体が情報共有できるようなまちにする。 ・総合相談の窓口を増やし、何か困ったときに相談できる所の環境整備を図る。 ・病院や各地域庁舎などの窓口できちんと説明・対応できる環境を整備する。 ・前記のための人材育成を行う。 ・専門職が挑戦できる保健・医療・福祉・介護・保育等の事業を展開して、特徴的な事業を行うことで、さまざまな領域の専門職に対し、新しい働きかたを提案できる。 ・こんなところで働きたい、と移住してくる専門職や、視察も来るまちにする。 <p>(・ヘルスケアからまちづくりまで、一見違う領域のものを合体させ、ごちゃまぜの事業等の展開を図ることで、地域が活性化される。) 宿題</p>

項目 ○人づくりによる人材の確保	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹産業である第一次産業がおざなりにされている。 ・ 核家族化、生活環境の変化、世代間の価値観の相違の拡大など、社会構造の変化を背景に、家族の絆が弱まっている。 ・ 地域において、人と人のつながりや地域への帰属意識が低下している。 ・ 介護士、保育士、医師等の人材不足で良質なサービスを維持出来ない。 ・ 保育士の確保、質の向上が図られていない。 ・ 核家族、共働きなどで放課後の児童に手や目が行き届かない家庭が多く、良質な子育てが出来ない。 ・ 子どもたちに地元の素晴らしさが伝わっていないため、地元愛が育たない。 ・ 放課後児童の対応などで元気高齢者を活用する等の有効な人材を活用できていない。 ・ ひとりの人が様々な役を兼務せざるを得ない状況にあり、自治組織役員の負担感が大きくなっている。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の充実により、子育てしやすい環境を整備する。 ・ 保育士の処遇改善の拡充を行う。 ・ 介護士、保育士、医師等の地元就職を条件とした奨学金免除制度の導入により、地元に戻って就職する可能性が高まる。 ・ 自治組織役員等の負担軽減により、地域活動の活性化が図られる。 ・ 若者が喜んで農業に従事できる施策を講じる。 ・ 地域福祉活動の担い手の確保と育成により、地域福祉の充実を図る。 ・ 元気高齢者が活躍するため、インセンティブを与えたり、場を創る。 ・ 高齢者の生きがいづくり・健康づくりを促し、地域の活性化に繋げる。 ・ 子どもや学生など若い世代が地域公益活動に参加することで、地域への愛着と理解が進み、将来地域に還元出来るようにする。 ・ 福祉、介護、医療、保育分野等の人材の確保、育成することで、地域の基本的なインフラ整備と地域社会の活性化を図る。 ・ こころの健康づくりに向けた関係機関のネットワーク化を図り、自殺予防や人材育成に繋がる施策を行う。 ・ 人づくりの基本として、健康な人を育むことで良質な人材確保を図る。 ・ 保育従事者の保育士資格取得の支援拡充と対象職員の拡大を図ることで、魅力ある仕事として成立させ、利用する側も安心出来るサービス利用が出来る。 ・ 地元愛を醸成するため、子どもと高齢者のいこいの場、文化的な習い事の間を創出し、将来の人材確保に繋げる。 ・ 子どもたちに地域活動参加のカリキュラムを導入し、将来の人材確保

	<p>に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元を知る高齢者の地域指導者を地元企業が受け入れ、企業内の教育・啓発を行う。 ・地元定着を条件とした医療・介護・保育職の奨学金制度の導入を行い、地元に残ってもらえるような仕組みをつくる。 ・保健・医療・福祉・介護・保育等における専門職の「実習」を鶴岡あけて各種専門職の受け入れを行う。 ・前記の受け入れの際、旅費、宿泊費、滞在費等を支援し、実習をきっかけとした就職（移住）の流れを期待する。 ・看護師、介護員、リハビリスタッフなどの人材養成学校を庄内全体で共同して設立する。
項目	○交流人口を増やす施策の実施
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒト、モノ、カネが、すべて交通網が発達している地域に流れて、田舎の過疎化が起きている。 ・子どもと一緒に遊べる場所が少なく、遠くに遊びに行ってしまう。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「若者が住みたい、ここで働きたい」と願う魅力あるまちにするため、具体的に話し合う場を設け、地元に着してもらう。 ・あらゆる年代の人々が活動に参加しやすい仕組みをつくる。 ・地域課題に活用できる社会資源を横断的に有効活用する。 ・郊外地の森林・農業などを積極的に提供する。 ・産学連携に基づく技術者の育成、企業の自立的事業展開を促進する。 ・適正な居住人口を検討し、めりはりのある予算投入を図る。 ・イベントの拡大により出会いの場を創出する。 ・空き家の利活用検討により、他の地域から来てもらえるようなまちをつくる。 ・子育て施策や支援の充実により移住者を増やす。 ・交通の便が悪いことを逆手に取る取組を行い、交流人口を増やす。 ・CCRCによる中高年の移住を図る。
項目	○若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化、過疎化、孤立化が進行する地域社会にあって、日常生活での困りごとへの対処、孤独死防止、生命・財産に係る権利擁護などが問題となっている。 ・保育サービスの充実が出来ていない。 ・子育てに係る相談支援の充実が出来ていない。 ・自殺対策に関して、自分には関係のないことと考えている人が多いので、

	<p>理解が進んでいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材がいないことで、サービス提供に支障が生じている。 ・今後の医療提供体制に対する不安がある。 ・子どもの一時預かりの充実が出来ていない。 ・不妊治療に対して、知られていないし、理解が進んでいない。 ・子育てしながら就職活動をするのが難しい状況がある。 ・転入者の子育て不安の緩和が課題。 ・総合計画を自分ごとと考える意識が希薄である。 ・高校卒業後、域外流出してしまう。 ・地域の最低賃金が低すぎる。これでは生活が厳しい。
<p>施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域での支え合いの仕組みづくりを検討する。 ・子育て支援を充実させる。 ・社会活動において差別や偏見のない心のバリアフリーの福祉教育により、誰もが住みやすいまちにする。 ・がん治療を行いながら、仕事を続けられる施策の展開等を検討する。 ・介護予防とその環境づくりの支援を行う。 ・三世帯同居を推進し、世帯内で支えあう施策の展開を検討する。 ・障害者スポーツへの支援充実を図る。 ・小真木原運動施設の利用無料化等による障害者スポーツの支援を行う。 ・こころの相談、ゲートキーパーなどを育成し、こころ豊かなまちをつくる。 ・専門職学生に対する奨学金の導入で誰もが活躍できるまちにする。 ・高度医療（急性期、災害）の充実を図る。 ・託児、キッズスペースの環境整備を図る。 ・障害者の活躍の場として、病院で電子カルテの入力業務を担ってもらい、誰もが活躍できるまちにする。 ・子どもが生まれるまちを目指す。（子育て、医療、介護、就労の場の確保等） ・介護と保育の一体型施設の建設を整備し、一体的な運用により、人手不足とサービスの効率化等を図る。 ・病気の時や休日の子どもの預かりの充実を図る。 ・体外受精を保険適用にすることで、費用負担が軽くなり、子どもを産む可能性が高くなる。 ・孤立しやすい転入者とのつながりの場を増やし、情報を提供する。 ・総合計画を他人ごととせず、自分ごととしてとらえ、鶴岡のこれから、自分のこれからの主体的に考えることのできる市民の育成を図る。 ・若者が戻ってきたいくなる地域づくりを目指す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の域内循環を高める施策を図る。 ・雇用の創出や地域内経済の循環をつくる。 ・最低賃金の向上を図る。
項目	○内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる産業として農業を中心とした地域であることが忘れられている。 ・冬期間の運動不足で地域の健康が低下しやすい傾向がある。 ・辛抱の地（内面重視、沈潜の風）であるため、心身が低下しやすい。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能の担い手の育成により、地域の活性化に繋げる。 ・市民自ら伝統文化、文化資源を理解しながら、後世に継承できるような活動を支援する。 ・子供たちに地元の歴史文化、郷土愛を伝える。 ・市民主体の芸術活動の促進を図り、地域の活性化に繋げる。 ・自然と文化の継承のために農業を活性化させる。 ・健康寿命の延伸により、市民が幸せに暮らせる。 ・健康増進施設の利用支援により、市民がこころ豊かに暮らせる。 ・医療、介護、保育従事者等のワークライフバランスを支援する事業を行うことで、市民がこころ豊かに暮らせる。 ・大岩川地区のケヤキ姉妹という風習を大切にし、少子化の中で義理の兄弟として育つ意義を全市で共有する。 ・流行は時間の中で伝統になるものと消え去るものがあることを踏まえ、古来から残っているものの意義を大切にし、若者に「本物の最先端」を意識させる取組を行う。 ・花よりも根を養い、土台をしっかりとした施策を展開する。 ・スローフードの取組で、健康的・文化的な生活が出来るまちにする。
項目	○「循環」をキーワードとして重視
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境保全のため、温室効果ガスの削減に向けた取組が必要。 ・本市は海拔0mから朝日地域の大平340mまで住民が居住している。 ・不法投棄がなくなる。 ・地球温暖化が進み環境破壊が進んでいる。 ・鶴岡は古来、輪廻転生・よみがえりの地（出羽三山・ミイラ・森供養...）であったが、それが活かされていない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家で出た生ごみなどを処理して、家庭菜園の土に使うなど快適なまちづくりで循環型社会をつくる。 ・地球温暖化対策の意識向上を図る施策を行う。 ・高低差の環境を活かす施策。小水力発電の設置等、農業、花き等の生

	<p>産の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化や再利用の促進を図る。 ・環境にやさしい生活スタイルの確立を図る。 ・看護師等の専門職の「実習」を間に挟んだ、教育と現場の後継者育成の循環をつくる。 ・高齢者や主婦層の活躍の機会創出で、地域の経済生産性を高める。 ・地元の食の豊かさ、自然の豊かさ、心の豊かさを繋ぐ。 ・廃校になった小・中学校や施設の活用を図り、社会的弱者のための地域拠点として活用する。 ・人材の循環の観点から、若い人にも重要な就職先として公務員を増やす。
項目	○対応から本格的国際都市へのシフト
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や高齢化が急速に進み、医療・介護など切れ目のないサービスが将来に渡り求められている。 ・先端研という強みがあるのに、まだまだ活かされていない。 ・宿泊施設、アテンドが不足している。 ・市民の語学力が不足している。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療、地域医療、介護など関係者・団体の情報の共有、サービスの向上を図り、国際化に対応できる環境整備を図る。 ・日本酒の海外への消費開拓による、国際的な活性化を図る。 ・市民周知の方法、手段を考え、国際化を図る。 ・先端研等によるヘルスケア関連の国際会議、学会・研究会の拡充。
項目	○コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と子育ての両立支援が弱い。 ・不妊治療、産休、育休に対する配慮が欠けている。 ・過疎地、交通弱者等への配慮が不足している。 ・何でもコンパクトにお金のかからない方向でという行政の雰囲気がある。 ・行政施設の廃止とか休止ばかりが目につく。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・食、文化、健康の3要素における、観光資源を活用し、市域を超えた広域観光の強化によるネットワークの実現する。 ・育休を取りやすく、職場復帰しやすい環境整備をする。 ・子どもの看護のための休暇促進を図る。 ・子育てに対する企業意識の変革を図る。 ・がん治療等の「ながら」ワーカーに対する配慮を図る。 ・移動式診療所、移動式スーパーマーケットなどの充実を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしながら就職活動をする人への支援を図る。 ・地域運営組織を法人化又は事業型地域運営組織へ変えていくことで、自立分散型社会の実現を図る。 ・中山間地域に小さな拠点をつくっていくことで、自立分散型社会の実現を図る。 ・行政施策として合理化ばかりの訴求ではなく、メリハリのある施策を推進する。 ・推進するものは推進するような行政対応、予算対応を図る。
項 目 ○オンリーワンを目指すプロジェクトの実施	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に例がないような事業所が少ない。 ・慶応先端研等の存在を活かしきれていない。 ・健康や検診に対する意識が低い。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・とがった、全国に模範となる、例がないような医療、介護事業所をつくる。 ・国立がんセンターやサイエンスパークとの連携。 ・健康に対する意識を高める。 ・慶応の子育て応援施設SORAIなどの施設を大切にしていく。
項 目 ○広域連携による持続可能な発展	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地方都市の抱える問題は鶴岡市に限らず、どの都市でもほぼ同様の問題や課題を抱え、その克服に取り組んでいる。本市における少子化や人口減少といった問題が克服できたとしても、周辺市町村が相応分減少したのであれば、庄内地域としての将来展望は明るくない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・他都市と競い合うのではなく協働して、地域（庄内地域・山形県・東北）が発展する構想を創る視点が必要。 ・他の地方都市との協働、庄内地方の市町村との協働、民間組織や企業との協働を図る。

鶴岡市総合計画審議会 第2回社会基盤専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年5月28日(月) 午前10時15分～12時
- 会 場 鶴岡市役所議会棟3階 委員会室
- 委員発言の概要

【JR鶴岡駅前周辺について】

A 委員

- ・駅前商店街で話題になるのがジャスコ跡地の話、マリカの活用の話、複合住宅の話であるが、誰がするのか、結果的に企業が買ってマンションにするのかなど疑問がある。
- ・地価の安い鶴岡でマンションに住みたい人がどれくらいいるのかわからない。
- ・マリカビルの利用予定も一緒に考えてほしい。（箱ものの有効活用）
- ・駅前通りの道路が評判悪い。特に歩道に砂利のようなものが敷かれているが、全部が剥がれてきており、体が悪い人の歩行車が全くひけない状態にある。観光で人を呼ぼうとしているのなら早急に直してほしいし、県が担当なら県に交渉してほしい。
- ・駅前商店街には住んでいる人はほとんど居らず、空き店舗もかなりある。借りる方は飲食店が殆どで、昼の店舗をしてくれる方がいない。昔はジャスコ等があったから、生活の動線があったが、今は無くなったのでわざわざ駅前商店街に来る事になるため、その辺もふまえた開発としてほしい。
- ・駅前に人を住まわせるため、マリカに人を住まわせたらいいと思っていたが、計画するマンションの1階にどういう店舗をいれると人が集まるか、検討を要する。

B 委員

- ・商店街も一生懸命いろいろやり始めたと思うが、正直駅にはなかなか行かない状況にある。
- ・駅裏に工業団地があり、共働きしている若い人たちもたくさんいるので、マリカの子育て施設をもっと充実させて、住んでいただく若い人を増やすのも一つの策と思う。
- ・シニア層になると一戸建ては除雪等が大変で、マンションに住みたい傾向にある。
- ・ターゲットを工業団地に勤めている若い人をターゲットにするのか、マンションに住みたいシニア層をターゲットにした方がいいのか。マリカにせつかく子育て施設があるから若い人が良いと思うが、施設の前を通ると子供が少ないと感じる。
- ・除雪が嫌なシニア層も多い。すぐ電車に乗れる、スーパーも近くにある。
- ・第一ホテルの近くのマンションは空き部屋が出るとすごい競争率だと聞いた。
- ・銀座とは違う、豪華な雰囲気とか駅近というメリットを十分生かせる人達が入ってくるのではないかなと思う。

- ・自身も全く同じ事をイメージしており、複合型住宅に誰がすむのかと考えると、コンパクトに暮らしたい、一戸建てではなくマンションで手を掛けずに暮らしたいシニアの方をイメージした。ビルの下にお店が入るのはシニアの方が生活に必要なものを買うお店なのかなと思うが、鶴岡に外から来る人のことを考えるとマッチしないのかなとも思う。
- ・歩道については整備も必要だが、私自身観光客目線で物を考えるので、歩く人が快適に歩ける道が作ってあるというのは大事なことだと思う。

C 委員

- ・複合型住宅については、最初説明を聞いた時には、下に店舗、事務所とか商業系ではなく、すべて住居で良いのではないかと思った。
- ・事務所や店舗はマリカに集約を任せ、住居については他の委員が先ほど言ったよう、不動産業界も高齢者の方は二階が要らないとか平屋がよいとしているか。
- ・マンションは、管理組合がきちりしていて、住んでいるだけでいいので非常によい。
- ・高齢者の方に1階部分は何が良いかと考えると、クリニック関係、眼医者、歯医者、耳鼻科、あと薬局。シニア層をターゲットにするというのならそういうものを入れて、商業施設はマリカの方に集めて観光客を集めるのが良いと思う。

C 委員

- ・現実的には駅の近くに住みたいというのは無いと思うが、グレードの良いマンションであれば高齢者の方はお金を持っているので、例えば近くに駅があろうと無かろうと、そういう需要は関係無いと思われる。
- ・複合型住宅の話聞いた時は、住宅で、しかもこれだけの面積で、結構大きいボリュームでどこまで需要があるのかなと思った。
- ・住宅だけではなく、店舗や事業所などの機能はどのようなものがよいか、なかなか規模的にもイメージしづらいと思っていた。
分かりやすいところでいうと、高齢者の生活支援や、もしくは子育て世代のということだと思うが、そういった機能はここなのか周辺にもたくさん箱があると聞いたので、そんなにたくさん埋められるのかと思う。マリカのところも併せて考えていかなければならない。
- ・最初に北側のロータリーに関して、これと逆側の南口を繋ぐ地下道が暗いという話があったが、そこをもうちょっとオープンなイメージになるような計画はあるのか。
- ・北側の駅前広場、ロータリーを作って駐車場を整備してというところは分かったが、駅にある広場の意味はどういうふうに考えられるのか。鶴岡の駅、観光に来た方の玄関口になるところで南側に出してしまうと思うが、北側の広場をどういうイベントとかで使うイメージしているのか聞きたい。

- ・ こういう広場は南にあった方が良くはないかと思う。

D 委員

- ・ 住居の件は委員各位から発言あったとおりのターゲット設定かと思われる。
- ・ 折角何か建てるのであれば、駅前のロータリーもあるし、観光客等がバスを降りてすぐ、駅についてすぐどこかに行ってしまうのではなくて、ちょっとだけ歩かせていろいろなところを見せながら駅に着いて、買い物してもらおうとか流動的な事があってもいいのかなと思った。
- ・ 先ほど下が店舗とかいろいろあったが、バスがそこで停まって、マリカの中を通過して、買い物しながら駅に行くとかそういう構想があっても良いかなと思った。
- ・ バス停の位置も含めて検討しても良いかと認識している。

E 委員

- ・ 話を伺い課題を初めて知った感じだが、住居については若者層とシニア層とで全く変わってくると思った。
- ・ ロータリーの自家用車とバス、タクシーが混在するというのはすごく感じる。
先日もバスのロータリーに車を停めたところだったので、自家用車をちょっと止める場所をぜひ整備してもらいたい。
- ・ 駅前で一番気になるのは、マリカの西館・東館もそうであるが、フーデバーができるとすごく賑わうのかと期待していたが、そこまで思ったようにしていない。また、それ以外にも2階の利用もなく、西館もたまに行くと暗くて寂しい気持ちになる。あれだけ大きい施設なのだからもう少しどうにか活かさないか。
- ・ 住宅はどういった人をターゲットにしているか、何戸くらい？何階？

事務局

(マンションについて)

マンションを建てた場合のターゲットについては、駅前の立地を踏まえ、工業団地を北側に控えること、さらに最近北部サイエンスパークにもいろんな方がおいでになっており、そういうことを考えると相当需要はあるのではないかと考えている。それとあわせて、お話があったが除雪関係でマンションに住みたいという高齢者がいるという事は聞いており、いろんな方が入れるようになればよいのかなと考えている。

商業的な機能については、入居者の視点と街の活性化という視点両方あると思うが、こちらとしてはマリカの方に商業機能というか、観光客向けの機能を設けているところであり、そのあたりとの整合性を図りながら、どういったものが良いのか、さきほどクリニック等があれば住居者も安心できるとかもあったが、フィットネスとか福利厚生的な施設も含めて、今後検討させていただければと考えている。

(ロータリーについて)

地下道については、照明が暗いという事で LED への更新と、壁面も老朽化しているので展示スペースなど JR と協議している。

虹の広場という緑地については、工業団地造成時に緑地として整備したもので、このたび工業団地の駐車場不足を解消する意味で半分を駐車場として整備したという経過にあり、残りの部分は緑地として残っているものである。

【鶴岡公園及び周辺整備について】

B 委員

- ・この場で言うことが適切かどうか分からないが、鶴岡公園という名称自体、ここが庄内藩 14 万石の歴史を持ち、そして本丸があり、お城だった跡なのに何故「鶴岡公園」なのか、何故「鶴岡城址公園」ではないのか、ものすごく不思議に思う。
庄内藩の街に今でもお殿様も住んでいることなど、歴史的部分を強調するには、「城址公園」というのが一番分かりやすいとずっと思っていた。
- ・この修景、イメージについては鶴工の脇の所、鶴南のところは塀にした方がいいのかなと思われる。あの辺を城下町ということ強調するということであれば、鶴岡公園周辺しか残っていないし、家中新町の小路の事もあるが、塀を板塀にするというのも、大正の頃に植えた桜の代替わりは進んでいるようだが、桜と板塀などそういう雰囲気、全体を通しての雰囲気づくりというのは大切だと思うし、裁判所等とか、官公庁っぽいところもあるので難しいとは思いますが、どの範囲で全体的な雰囲気、お城があるわけではないので、小路や桜、お水、お堀など、そのようなイメージで鶴岡公園が存在した方がいいのではないかと思う。

E 委員

- ・整備箇所についてはこども広場ができると聞いていたが、自分自身公園周辺で育ったため、子供の頃鶴岡公園でよく遊び、また、アートフォーラムの所に児童遊園地があったが、いまだにあそこで遊んだ楽しさが忘れられない。(自身が)子育てしている時にあのような遊び場が無くなってしまったのが本当に残念である。
- ・鶴岡公園には老朽化したものしかない。でも子供たちはそういうものでも見つけると遊んでおり、それを見ると、痛々しいと感じる。鶴岡公園の周辺はとてもきれいに整備されたが、野球場も小真木原に移って、本当にきれいだと思うが、子供たちがアートフォーラムとかに来た時に、じゃあここで遊んで帰ろうとはならない。大人の街だなと思う。
- ・歴史と文化ゾーンなのでそういうイメージだったのかなと思うが、子育てしていると、なんか子供に優しくないような、子供目線がない街だなと感じる。
では、子供を遊ばせるにはどこに行くとなると、天童とか東根とか大きな遊具施設の

あるところとか、三川ジャスコとかにみんな行ってしまう。酒田だとまだアスレチック場とかあるのでそっちに行くなど選択肢があるが、本当に鶴岡は子供を遊ばせるところがないと言われていたので、ちょっとしたスペースでも子供の遊び場があるとすごくうれしいし、子供たちが楽しめる空間にしてほしい。

- ・道路に関しては板塀が良いと思う。
- ・整備するというのは歩道ができるイメージなのか？お堀が埋まるっていうイメージ？
- ・高校生の時にここを歩いて帰っていて後ろから車にはねられた。高校生の自転車の集団に気をとられて、自分の事が暗闇で見えなかった。ここは混雑して危険なのでしっかり歩道の場所をとってほしい。
- ・公園の内堀周辺道路に歩道ができて、いい流れの感じと思われる。どっちに広げるのか？お堀を埋めるわけにはいかないと思うから、高校の校舎とかはどうなのかなと具体的ところが気になった。広げられるのであれば、景観にも配慮しているし、安全面でも良いと思う。
- ・役所の北側の方、屋敷型の昔のまま守ってきた風景を崩すのはどうかと思った。
- ・道路拡幅を考えると役所の方に広げるのかなと思った。そうすると正面に鳥居が見えるのがずれるとどうなのかなと見ていた。
- ・屋敷型の風景、立派な樹木もたくさんあるなかで、そっちを削ってしまうというのはどうなのか。歩道ができて、安全になったというだけで終わってしまうのはすごくもったいない。景観と機能性と含めるならば、一方通行にしたほうが良いのではないかな。
- ・公園の方は歴史的なものも含めながら交流スペースを作っていこうというのは良いと思う。真ん中にある休憩スタディスペースというのは建物が建つという事なのかどうなのか。
- ・駅前のお話でフーデバーは難しいってなっていたので、どういった場所で食事するのか休憩するのか、周辺環境が重要だと思う。きれいに整備された所に、ちょっとした休憩するような、それこそ他にとって意識するようなものが建つのは良いと思った。
- ・私もスタディスペースの件はどういうものなのか気になった。
- ・道の部分、市役所の北側では、写真を見るとあまり優しくない道で、どこを歩くのかわからない感じであるが、整備イメージだとベンチも置かれたりして歩く人に配慮されて優しい道になるなと思った。ただ、武家風の塀というのがそのままそれ自体が魅力になるようにデザインされているのが理想ではないかと思う。
- ・整備イメージを見るとなんとなく鶴岡公園が街なかに広がっているような優しい感じがするので、そういうイメージで街が作られていたら良い街になるのかなと思った。

A 委員

- ・鶴岡公園の道の件だが、私も通勤時、鶴岡南高校の前を通過して工業の前を通過して致道博物館にぬけると、急に曲がる所がすごく危ない。冬なんて除雪すると道幅は狭くな

るし、冬は通らないようにしている。なぜかという、鶴南、鶴工に来る子供たちをおじいちゃんおばあちゃんが車で送ってくる。そこで大渋滞が起こる。

- ・そこを整備するのならば、道幅を広げないかぎりはどうしようもないのではないかな。
- ・融雪にするとか、雪がとけるようにするとか対応してもらわないと渋滞は解消しないのではないかなと思う。

C 委員

- ・自身もこの内堀の道路を毎日通勤で使っているが、混雑してカーブの所が一番危険なので、工業から交差点の方に行けばある程度道路が広くなってくるので、工業が引っ込んでくれれば十分実現可能かなと思う。

工業の所については、高校生だけでなく、小学生も3小に向かって登下校時はかなりの人数が通る状況にある。

D 委員

- ・統一感を持ったイメージを作っていたほうがよいと思う。
- ・内堀のカーブとか私も高校生の子供がいるので送り迎えとかするときもあるが、本当に渋滞する場所で、拡幅しなければ一方通行が理想なのかなと思っている。
- ・バス路線や編成なども変えることになるのか。

事務局

(バスハブ機能について)

バスハブ機能整備については、ここに具体的にするというのではなく、一応そういった機能をこちらの方に、この辺にあった方がいいかなという事で、具体的などころについては、バスの時間だとか、ここの道路の混雑の問題だとか、道路の狭さの問題だとか、いろいろ整備をしながらになると思う。ただ機能としてこういったものがあつたほうがよいということで仮置きさせていただいている。

B 委員

- ・合同庁舎が入ると車で来る方が多いと思うが、今でも駐車場が満杯で入れるのも大変であり、その点はどう考えているか。
- ・官公庁が来ると、土日は閉庁だと思うが、来る方々を拒否しているような感じを与えないかなと懸念される。
- ・1階一部分をオープンスペースにするような考えはあるのか。おもしろみのない建物になるのではないかなと思って。完全に閉めてあるとあまりいい感じはしないかなと思われる。
- ・バスプール、バスハブなどができて、もっと高校生等もバスを利用して通学するとい

う部分が出てくれば、また構想も変わるのかなと思う。

- ・桜の季節とか此方に車を停めて歩いている家族とかもよく見かけるので、是非市民の人達が使いやすいようにしてもらいたい。

G 委員

- ・合同庁舎は国で進めていて基本設計的な事をしている。検察の被疑者を入れるところだったり、ハローワークだったり、皆さんいらっしゃいという感じではないと思う。

E 委員

- ・よそ者からみて、この場所は空き地になって寂しい場所というよりは、豊かなオープンスペースがあると感じている。それが全部無くなってしまおうと思うとちょっと寂しいと思う。

C 委員

- ・シビックコアについては何年も前からこの話をしてきて、だんだん見えてきている。駅前よりも想像しやすいとみている。このまま進めてかまわないと思う。

D 委員

- ・合同庁舎ができた場合、駐車場で終わるのだけはやめてもらいたい。
- ・学生とかバス利用できるようになればいいのかなと思われるし、そうするとお年寄りとか保護者とか高校に送るのもバスを利用すれば渋滞もなくなるのかなと思っている。
- ・バスハブができるという事は、普通に考えるとどこか他の所に駐車場があつて、バスに乗り換えてもらって、そうなれば交通渋滞が無くなるというように変えていく計画が並行して無いといけないと思う。
- ・街なかの駐車場というのはできても狭く、豊かな風致っていうのは財産だろうと思う。

F 委員

- ・駐車場など豊かな風致という話があつたと思うが、全部建物が建ってしまうとだいぶ印象が変わってしまうだろうと思う。
- ・先ほどの駅前のマンションの話もそうだったが、建物があると景観がなくなってしまうというか、見通しが利かなくなるので、そのことを考えていただいているとは思いますが、視界が開けるような作りというのも豊かな街には必要かと思われる。

A 委員

- ・合同庁舎の駐車場は大丈夫か心配である。職業柄税務署に行くことも多いが、それこ

そ10年くらい前から合同庁舎になるという計画があった。税務署はただでさえ来客が多い。今は確定申告をエスモールでやっているが、特別会場を設けて、それが普通であれば税務署でするわけで、確定申告の手続きなどを全部ここにもってきた場合の駐車場を考えると、かなり大変ではないか。もちろん遠くに駐車場を設けるという考えもあるのかもしれないが、やっぱりいらっしゃる方はどうしても近くに停めるだろう。あまり合同庁舎で税務署とハローワークと一緒に入るのは多くはないと思うが、駐車場だけは本当に一杯とっていただきたいなという希望がある。

G 委員

駐車場が良いか、広場が良いか、また建物が良いのか、なかなか難しいところはあると思うが、こういう計画の時はもっと広いグランドラインが本当に欲しいなと思っていて、バスハブについても言及したが、バスハブもどこに作るか非常に重要なことで、それをどういうふうに配置するのかとか、それがハブとしてどれだけの中心性を持つのかとか、そういう議論がほしいと思う。

それと正面公園の話の時も思ったが、古い石垣が残っているなど、そういうものは特に外から来たものには印象に残るもので、前は堀だっただろうとか当たり前ながら想像する。そういう痕跡をどう表現するのかとか、そういうことが気になる（大山街道と羽黒街道沿いなど）

交差点というのは非常に大事なところで、市役所側の角はどうするのかとか、そういうコンセプトがほしいし、そういうことが一番大事な気がする。

事務局

いろいろ歴史的なものもあるが、明治初期に廃藩置県となり、全国にあるこういったお城の跡が国の政策を受け、明治9年頃にすべて公園にするという命令で、お城の跡が公園になったという経緯がある。

当然、我々も今皆さん方が外からいらっしゃった時に、城址公園と、外向けにはパンフレットには書いてあるのだと思うが、当時公園という事で名称的には、城址というのはお城のあった、歴史的なものもあったかもしれないが、当時城址と付ける事がどうだったのかなと思う。想像にすぎないが、ただその時に公園にしなさいといった名称が鶴岡公園と付けたような経過があったのではないか。ただ、やはりパンフレットとか見れば、「鶴岡公園」「城址公園」という表現とさせてもらっている。

事務局

基本どちらの道路についても現道を維持してという考え方で工事は進めていきたい。

ただし、内堀周辺道路については、皆さんから意見のあった鶴工前のクランクの部分が非常に狭いという事で今年度予算に用地買収費がついているのだが、鶴工では今体育館を

ちょうど整備しており、それと併せてあそこの拡幅となると学校のいろんな面で不都合や危険性もあるので、今年できるか、来年できるかという意味での拡幅の計画はしている。

それと現状の道路の維持の中で歩行者と道路との危険ということで、考え方としては、堀端の方を歩道というような、分離するようなイメージで進めていきたい。

あと、板塀等の景観維持ということもあったが、鶴工の道路拡幅によって塀の部分が解体になるので、黒塀にできないかということも、鶴工と話題としているし、制度的なところで周りの景観修景や今後進めていけるかどうか検討している。

G 委員

あと正面公園が子供たちのものなのか、いわゆる歴史文化を見せるものなのか、おそらく両立させますという事だと思うが、基本コンセプトみたいなものが伝わっていた方が良くないかなと思われる。考えは？私は両立すると思うが。

事務局

基本的に正面広場については、ちょうど正面的なイメージで観光客の方なりもいろいろこの辺散策していただいている方も多いという現状もふまえて、城址公園的な雰囲気醸し出ししながら、子供の遊び場についてもいかにも遊具というイメージでなくて、自然の高低差なんかを醸し出しながら子供たちが遊べるようにしていったらどうか。疎林広場の方に遊具を整備するのが適当ではないかというご意見もあるので、そういった形にもっていければと思っている。休憩スタディスペースについては、観光客の方なり、学生さんもこの辺歩くので、「あずまや」という言葉が適当か分からないが、まずはそこに座って、語って、場合によっては勉強もできるくらいのイメージにして人が集う場所にしたい。

あわせてミニイベント広場は開かれた公園という事でキッチンカーなんかも土日なんか入れるような形にして、いろんな市民の方が集えて賑わいが創出できるような形にしたいと議論していた。

G 委員

「正面広場」という名前に違和感があるが意味はあるのか？

事務局

「正面広場」については、「二ノ丸広場」が適当なのではないかという意見が結構ある。名称についても今後議論して検討していく。

H30.5.28(月)鶴岡市総合計画審議会 社会基盤専門委員会 資料

(テーマ)JR鶴岡駅周辺地区、鶴岡公園周辺地区で予定されている事業について



鶴岡公園正面広場



鶴岡公園内堀 アオコ発生状況



鶴岡公園周辺道路



歴史的風致維持向上計画
「鶴岡公園とその周辺地区」

公園整備
都市機能集積 ⇒ 都市の魅力を高める
景観形成

鶴岡公園周辺地区

- 歴史的風致維持向上計画
「鶴岡公園とその周辺地区」(街なみ環境整備事業)
 - 鶴岡公園内堀周辺道路修景事業
 - 鶴岡公園正面広場整備事業
 - 案内サイン整備事業
 - 三日町口通り道路修景事業
- 鶴岡公園内堀環境整備事業(堀浄化)
- (国) 鶴岡第2地方合同庁舎
- シビックコア地区交通輸送対策(バスハブ機能)

- 空き地・空き家
- 駐車場
- 高齢化
- 公共交通
- まちなか居住
- 都市機能集積

中心市街地活性化基本計画区域

駅北ロータリー予定地



★駅前地区遊休地



JR鶴岡駅周辺地区

- (市道) 鶴岡駅前線道路改良
- (市道) 鶴岡駅地下道線道路改良
- 優良建築物等整備事業
- ★ 駅前地区遊休地活用

駅前広場バスロータリー



バス・タクシーと自家用車の混在による交通の危険

駅前広場タクシープール



(都)道形黄金線 交通渋滞状況



シビックコア地区多目的広場



(国) 鶴岡第2地方合同庁舎建設予定地



暮らしやすい(クオリティ・オブ・ライフ) = 歩いて暮らせるまちづくり

空き地 × 駐車場 × 公共交通 × 高齢化

鶴岡市総合計画審議会 第2回産業専門委員会（会議概要）

- 日時 平成30年5月30日(水) 午前3時から午後4時50分
- 会場 鶴岡市役所 3階 委員会室
- 委員発言の概要

A 委員長

・説明があった9つの着眼点に関連した現状課題、施策の方向について事務局から資料にまとめていただいたので、これを参考に委員の皆さんのご意見を伺いたい。

B 委員

- ・9つの着眼点については、一つ一つバラバラに存在するのではなく、これが有機的に繋がってはじめて地域なのではと感じた。
- ・社員の人づくり、投資を呼び込んで色んなものを作ったり、交流人口を増やしたり、そのために地域の文化資源をどう表現していくのかという課題もある。今は、環境省と循環型のエネルギー問題にも取り組んでいる。
- ・インバウンドを踏まえた国際化へのシフトも課題になっている。
- ・コンパクトとネットワークという項目について、自社では、人がいなくなってきた中で、会社自体をコンパクトにし、地元に住み、関わっている人だけで完結できる仕組みにしながら、地元に住なくてもいい業務はネットワーク化して全て外注化しようとしている。予約業務は在宅の主婦の方々をネットワーク化して東京で行っている。
- ・鶴岡全体も大切ではあるが、自らの地域からしっかり考えていかなければならない。当地域では、縦割りにならないよう地域をマネジメントしていくための会社を新たに立ち上げ、取り組んでいる。
- ・鶴岡はかなり広く、それぞれの地域が個性をもっている。コンパクトな地域がネットワークでつながることで鶴岡の個性を作っていくものだと考える。

C 委員

- ・現在、鶴岡の人口が14万人。以前、2050年には10万人を切ると聞いた。
- ・(事務局)：研究所推計では2040年で9万4千人、将来望む人口は10万5千人である。
- ・推計値と目標値の差が1万人。どこからか連れてこない目標とする10万5千人にはならない。
- ・日本全国、働き手不足で人がいない。農業も同じで、以前の農業は春作業だけが忙しかったが、今は、春だけでなく1年を通して人材が不足している状況。しかし、農業だけでは通年雇用できないという厳しい問題がある。それを鶴岡の商工農で外部から

の雇用を維持する取組み、よそから来た若者やリタイアした方が永住する取組みができれば、人口減少対策にもつながる。

- ・28年度のUターン就農者9名とある。一方で、29年度にリタイアした農業者は100名ぐらいと現場でイメージしている。どこからか人を連れてこないで農業自体が衰退してしまう。
- ・アメリカの農業は、移民（メキシコ人）が、1月に西海岸でのオレンジの収穫が終わると、オレゴン、ワシントンへと移動し、12月にリンゴの収穫が終わり南に帰っていく。彼らがいないと農業が成り立たない。優秀な移民はそこに永住する。日本でもサトウキビ工場で働いた人が、山形でサクランボを収穫し北海道に移るJAの取組みもあり、これを鶴岡に留めておくことも考えなければならない。
- ・鶴岡で生まれたから鶴岡に骨をうずめるという人は少ないので、皆で知恵を出して、どこからか人を連れてくるような取組みを考えなければならない。人口減少対策にもつながるし、産業面でも労働力確保にもつながると思う。

D 委員

- ・チャレンジショップや安く店舗を借りて新しく起業されている方々をよく見かける。ある程度期間が経ったあとの状況も調査すべき。
- ・国際社会や国際都市を目指す上で、外国の方が鶴岡市を訪れようとした時に、英語での情報が無いという声がある。市のホームページの英語化率を数値目標として設定し検証することもできる。
- ・起業や新規出店された方々を応援する意味でも、新しいものに対して市民のマインドをくすぐるような施策を考えることが必要。
- ・新しく事業を始める場合の开店資金に対して支援する仕組みがあると良い。

E 委員

- ・鶴岡市では人口減少がどの分野においても一番ネックになっている。鶴岡に戻りたくないような、住みたくなるような構想や施策が必要。鶴岡で就職をしたい、農業をしたいと思うような構想がないと、人口減少の歯止めにつながらない。若年層、子どもうちからの何らかの仕掛けが必要と考える。
- ・鶴岡の魅力をどういった形で発信し、最終的には定住してもらおうという形のものがつくれないか。
- ・農業においても農地が荒れている状況もあり、どう保全していくのか、また、高齢者も多くなっているため、新規就農者や若い農業者をどう誘導していくのか課題。

F 委員

- ・産業といえば選択と集中、「期待の持てるところには投資を集中させる」ということで、企業であればそうだと思うが、これが、市のこれからの10年の施策を考える場

だとすれば、それでいいのかと着眼点を見て思った。例えば、国が、外国の富裕層をターゲットとして、観光収入を上げようという動きもあるが、出羽三山に来る方は、デイパッカーとかあまりお金をかけない外国の方が多いため、そういう方々に富裕層向けの対応をしても意味がない。これから観光振興や産業振興を考えた場合、行政があることに集中すると、一方で、見逃されてしまう業種や個人が出てくるのが問題と思っており、行政はそういうところにも手当していかなければならないと思う。

- ・観光資源のパンフレットが数多くあるが、ほぼ内容は同じである。例えば、鶴岡の食文化といえば、蕎麦や麦きりはパンフレットに出ているが、市民が日常的に食べているラーメンは出ておらず、多くの店、利用者がある一つの分野が、行政的には見落とされていると思う。
- ・鮭川村では「トトロの木」を前面に観光PRしているが、村だからこそその取組みで、鶴岡市であれば見向きもされない感じもある。まちが大きくなって、大きな観光資源があるため、小さな、あるいは可能性のある資源が見落とされていると感じている。地元で観光事業を行っている目線では気づきにくいこともあるため、これから発掘して磨き上げたら伸びるものは何か、U I J ターンされた方や、外国人、旅行者等の目線も必要と感じている。

G 委員

- ・若者が定着して子供を産まない限り、人口は増えない。何をすれば若者がこの地域に住み、子供を産むようになるのかを出羽商工会青年部でも検討している。
- ・鶴岡の中小企業の9割近くは小規模事業所である。小規模事業所が減っては、鶴岡の商売は成り立たない。経営を継続し承継していくことが課題。中小企業の人材不足は非常に厳しい問題である。
- ・中山間地域での新規農業者は1名となっている。私も離農者の農地を引き受けているが、中産間地域で農業を続けられる政策があっても良い。

H 委員

- ・県漁協でも平成22年頃から、新規就業者を増やそうということで、国、県の事業に取り組んでいる。鶴岡市も一本釣り漁業に対していち早く事業を作ってくれたが、関東圏の方から新規就業したいという話が来ているが、宿泊できる研修施設がないなどの不具合もある。
- ・釜石も、鶴岡市と同じように、関東から受け入れても泊るところがないという問題があった。
- ・山形県の単独事業として、新規就業者に対する船の購入に対する補助事業を作っていたのだが、規制緩和により近年は船が大きくなっている中、岸壁は小さな船に合わせたままとなっているほか、漁港の巻き上げ施設は昔のままであることから、巻き上げられない由良や鼠ヶ関の船が酒田に行ったりしているなどの問題もある。

- ・魚という点では、鶴岡市は、庄内おぼこサワラ、紅エビ、鼠ヶ関のエビ、トラフグ、海藻類、サザエ・アワビ・岩ガキ等の貝類とか、非常に優れたものを持っているが、多くありすぎてぼやけなければいいなと思っている。
- ・インバウンドの話もあったが、外国人観光客のほか、関東圏、北海道から観光客が来ている。その人たちを日帰りではなく、足止めするためには、食べ物であれば湯野浜温泉などと協力するなどし、鶴岡のどこそこに行けば必ずこれを食べられるというような施策が必要である。
- ・鶴岡の底引き網船は、例年だと120日くらい操業するのが、平成29年度はシケのため90日も出ていないため観光客に対して地場の物が提供できない状況となった。県漁協では、県単独事業でリキッドフリーザーを購入し、旬のものを急速冷凍し、シケの時に食べさせようという取組みを開始した。
- ・観光の面では、三瀬、堅苔沢、由良に定置網漁業がある。〇〇旅館は体験漁業をさせて好評だと聞いているが、酒田市民から漁協に問合せがあるなど、コマーシャル不足だと感じている。
- ・山形市内に漁協がアンテナショップを持ったが、「あなたたち、売り方、コマーシャル下手よね」と言われてショックだった。県、鶴岡市、漁協の力の入れ方が足りないと思っている。私は、いろいろな対応案を持っているので、鶴岡市と一緒に考えていきたいと思っている。
- ・最後になるが、10年後の鶴岡市を見たときに、人口の減少が一番なんだと思う。酒田市もそう。庄内を一括りにしたときに、大きなものは鶴岡市の観光であったり、漁業であったりするので、いろいろな場で言っていきたい。

I 委員

- ・中心商店街のにぎわい創出に向けて、市内の商店街が集まっているが、実際に集まる人は数名といった状況。商店街での食べ歩きツアーやお宝を見に行くツアーを企画している。
- ・数値目標は大事である。事後検証できるような専門委員会にしていきたい。
- ・「交流人口を増やす施策」と「コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現」には興味があり、商店街としてもこれは必ず進めていきたいと思っている。
- ・高齢化が進み、商店街だけでは立ち行かなくなっている現状があり、専門委員会の農業や林業、水産業の方々と一緒にやっていきたい。

J 委員

- ・大きな問題が二つある。まず第一点が、生産拡大を進めようとしても生産してくれる方を中々発掘できない。労働力が減り、人がいないという非常に悲しい現状である。庄内はメロンの大産地であるが、日本の三大産地、九州や茨城でもどんどん作付が減っている。それも高齢化で、軽量野菜や葉物に変更する傾向で、メロンの需要は非常

に高いものの、生産拡大と言っているような手立てをしているが、中々一緒にやってくれる方を発掘できない

- 二つ目は、村がなくなるという課題である。生産組合が機能していた時代では、集落機能がしっかりしていた。営農座談会をしても、次から次と村の話をして、地域を守るという姿勢が見られたが、今は受委託が進み、農業者がいなくなり、じいさん、ばあさんしかいない村が多くなり、集落営農をしてもリーダーがいない。若者は鶴岡の市内に家を建て、実家の周りが草だらけで誰も管理しない。これでは、交流人口を増やす施策の実施よりも、定着するための施策を優先すべきではないだろうか、というのが現状である。
- なぜそうなるか。農業は経済的満足度が弱いということ。どうしても冬場の所得をキープすることが大変苦しい。また、加工分野に回しても、加工原料は、驚く価格で引き取られるというシビアな状況である。
- それと精神的な満足度のないところには人は定着しないだろうと思う。周りが草だらけのところ、長男だから家に残って農業やりましょうと言っても難しい。
- 自然と文化こそがオンリーワンであり、美田、棚田を守る、または森林を守る、美しい形を維持するということが心の、精神的な満足度につながるのではないか。産業も大事であるが、いわゆる社会の満足度、心の満足度という観点を深く考えて計画を作ってはどうかと思っている。
- ここに9つほど出していただいて、読めば読むほど難しく、わからなかったが、ただ、4番と、5番と、9番のフレーズには、本当に共感するところがある。
- 循環という言葉があるが、やはり、経済の内部循環が必要であるだろうと思う。経済的な循環がしっかり構築できるようになればと思っている。
- 前回の計画では成長戦略があった。鶴岡ルネサンス宣言ということで5つの文化都市をフレーズとして挙げており、非常にわかりやすく、理想像として良かった。これについての評価、検証がどうなっているのか。後で、いつか教えてほしい。
- 我々も振興運動計画を作っているが、大きな変化よりも、継続性の重要さを感じている。目標とする将来像は、いつになっても変わらないのではないか。「美をコンセプトとしたまちづくり」として、我々の農業振興運動計画も踏まえたところで、いわゆる、経済と両輪でいきたいという視点でやっている。

A 委員長

- 10年の計画と言っても20年、30年なりの一世代を超えたところを見据えつつ10年を考えなければいけないだろうと思う。全国統計予測から下振れをするのが傾向である。鶴岡が2040、2050年にどうなるのかということ意識しておくべきである。それを上振れさせるための施策を考えないといけない。
- 新しい事、全く今までしたことがないことは難しい。鶴岡の人たちが得意としていること、日頃やっているもので、外部からの鶴岡イメージを考えたいという視点で経済循環が生

まれるものを考えてみるのもいいのではないか。例えば、食分野創造都市もキーワードにするなど。

- ・資料のまとめ方で思ったのが、まちづくりの重視したい着眼点を縦軸、各施策の方向を横軸と格子状に整理すると、重複や足りない所が見えてくるかもしれない。

C 委員

- ・鶴岡市の農業算出額は全国26位とすごいが、人口減少するので10年後に何位になるか心配。
- ・輸出米をマレーシアに送っている。日本国内で売るより安い、日本の人口が減るので、輸出米をこれからも増やしていくことは重要だと思う。可能性を海外に求めることもこれから必要なこと。それは個人ではできないことで、組織でしないといけないことである。農産物の輸出のサポートをしてもらいたい。

F 委員

- ・まちの価値を高めようと手を上げてくれるような、地域の方を巻き込んで観光振興を考えなければと思っており、見逃されているような観光資源を発掘するためにも、地域の方の視点を取り入れていく必要があると思う。
- ・様々な会議での話、観光の現場で個人が努力した成功例、また、失敗例もあり、いろいろな人たちで情報交換し、戦略を一緒に練っていく場、行政・地元・事業者などの立場から現場感覚で話ができる場、意見を吸い上げる場があればと思う。
- ・山間部の遠い場所など、マイカーでしか行けない観光資源は、外国人観光客や運転しない人からは見逃されてしまうことになり、二次交通が観光の多様性に決定的な意味を持っている。

D 委員

- ・わかりやすいことは大事なこと。この9つの着眼点を市民憲章に関連する順番に並べ直したらわかりやすくなるのでは。

G 委員

- ・出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって少しずつ改善されていくと思う。
- ・ユネスコ食文化創造都市として、他の都市にないオンリーワンのプロジェクト、ブランド力が鶴岡市にはある。

B 委員

- ・観光連盟では、地域とお客様の視点を客観的に調査し、そこから戦略を立てているが、鶴岡の認知度は低く、思いと現実のギャップを埋めていくことが重要。500人への調

査では、羽黒山に行った人は4、5カ所周遊しているが、加茂水族館は一点目的型であること、食文化創造都市をとっているが、日帰り客の多くが市内で食事をしておらず、他市に流れている可能性が考えられる。客観性がないと合意形成がとれないため、データに基づいてこれから先の鶴岡の観光のことを考えていかななくてはならない。

- ・ 幸せの価値は何か、お金なのか、価値観が多様性しており、自分がどうありたいか、お客様がどう思うかというマーケティング、ブランディングを考えたい。

H 委員

- ・ 鶴岡市は高速道路で新潟とつながる。インターが出来ると商業施設が必要になるが、海の物を扱う県漁協は力にならなければいけないと、常勤の役員を交えて話をした。他市町よりも先にしっかりしたものを考えて作れば、鶴岡に対する集客が増える。
- ・ 食文化、水産流通に関係する部分で、酒田港に係留してある小波渡の第38正徳丸は、漁港から北海道まで、サケ・マス流し網漁業において無寄港で行って帰ってきたという歴史的にすごい話がある。第38正徳丸が無くなると潰えてしまうので、こういう漁業の隠れたところも紹介してほしい。また、由良地区にあったリヤカーで魚を売るアバさんが居なくなってしまった。山形県が庄内浜文化伝道師を作るのであれば、個人的な思いとしてはアバさんの文化を残してもらいたかった。
- ・ 海産物を販売するにあたって保健所の取り扱いが厳しい。鼠ヶ関の大漁旗フェスティバルや由良の大漁祭などでネックとなるのが保健所の対応。行政も漁協に任せきりということではないと思うが、しっかりとしたフォローが無いとイベントすら出来ない状況にある。
- ・ 鶴岡には優れた物、優れた人がいるので、宣伝下手と言われることが無いように、伝統歴史ということであればこれから先何百年も続くので、検討して進めてもらいたい。

J 委員

- ・ 企画専門委員会のほうで、まちづくりの基本方針とか基本政策、主要な課題を検討されたが、その内容を情報としていただきたい。我々の現場の課題とギャップがあるか、そういったものを盛り込んで方向を一緒にまとめ上げることが出来ればいい。
- ・ 10年後に鶴岡はどうなるのかという簡単な青写真のようなものがあればいい。生産者3,100戸の組合員がいるが、シミュレーションの中でどうしていくか、現場に訴えるときにロジックに説明・検証ができる。
- ・ 鶴岡は、米、メロン、だだちゃ豆以外の農産物は消費地。自給圏を作るというプランを出して農協と行政がタッグを組んでやるとか、産直の先の話のことも内部循環という視点でものを考えると、鶴岡市や市場のデータを使って組み入れてみるとか、検討された情報を頂ければ我々も勉強になると思う。

I 委員

- ・経済の循環という市民が地域にお金を落とす仕組みを作っていくべき。

E 委員

- ・各分野でいろいろな課題や問題があると思った。これからどうやって整理していくか難しいが、それぞれの分野でそれぞれ抱えている問題があって、点の状態を線とか面にしていきたい。
- ・若い人のアイデアや独創的な発想があるので、意見を聞いてみたい。10年後のありべき姿を検討する上では、これから先に立っていく若い人たちの意見を取り入れたい。
- ・人口が減っていく中で、他から見て鶴岡でなければならないこと、同じことをやっているのはダメだと思うので、差別化になるような取組を、関連するところで一緒になって出来ればと感じている。

A 委員長

- ・産業という分野なので、可能なら事務局で試算してもいいかなと思うが、10年後にどれくらいの所得が必要なのかと考えた時に、どれくらいの生産が必要なのかというのを計算できるのではないか。農業産出額 306 億で 180 億の所得を、認定農業者の目標 400 万で割ると何人になるのかというと 306 億では足りないという話になる。400 万を確保しなくても生きていくすべは、鶴岡にはどういうものがあるのか。所得が無ければ若い人は来ないというが、どのくらいの所得が必要で、そのためにはどのくらい生産する必要があるかは計算できる。そうすれば現状が確認できるし、目標をどうしたらいいのかが出てくるのではないか。
- ・今日の意見を踏まえて事務局から資料を作ってもらって、5日の企画専門委員会の情報も加えた形で皆さんから見てもらい、その段階で気が付いたこと等を出していただきたい。

これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する
産業専門委員会での協議・意見

項目 ○挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備	
現状課題	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業に関心が高い移住者（IターンやUターン）の受入れは、新たな農業の担い手の確保につながるが、28年度のUターン就農者は、9名にとどまっている。 ・法人の農業経営体の数は増加しているが、企業的な経営になっていないケースがみられる。 ・本市は恵まれた農林水産資源を有し、豊富な知識と経験、高い生産技術を持ち合わせた農業者がいる一方、こうした資源を生かした高付加価値化の取り組みが少ない。 ・ほ場区画が小さく水路が老朽化している地域では、効率的で競争力の高い農業経営が困難となっている。 ・28年度のUターン就農者9名とある。一方で、29年度にリタイヤした農業者は100名程度と想定され、外部からの人材の確保が必要である。 ・日本全国、働き手不足で人がいない。農業も同じで、以前の農業は春作業だけが忙しかったが、今は、春だけでなく1年を通して人材が不足している状況。しかし、農業だけでは通年雇用できないという厳しい問題がある。 <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。 <p>[水産]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東圏からも新規就業したい人が来るが、宿泊する施設がない。 ・漁船の大型化に、岸壁や造船場の巻き上げ施設が適応できない問題がある。 <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員の人づくり、投資を呼び込んで色んなものを作ったり、交流人口を増やしたり、そのために地域の文化資源をどう表現していくのかという課題もある。
施策の方向	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡で生まれたから鶴岡に骨をうずめるという人は少ないので、皆で知恵を出して、どこからか人を連れてくるような取り組みが必要である。 ・移住者を受入れるには、鶴岡の農業の魅力を発信し移住者を鶴岡に呼

び込むための仕組みや農地や機械等の経営基盤を持たない新規就農者に対する支援など環境整備が必要である。

- ・農業法人は、経営地域農業を支える担い手のひとつであり、経営者としての意識改革の促進や異業種からの参入なども含め、法人経営を行う経営体を増していく取組みが必要である。
- ・農商工観の連携により農林水産資源の高付加価値を図り、新たな地域ビジネスを創出する取組みが必要である。
- ・作業効率の向上や高収益作物の導入によって、企業的経営と新規参入を促すため、大区画化や水田畑地化の必要性が高まっているが、予算的制約等により整備に長期間を要している。
- ・農業での通年雇用が難しいことから、鶴岡の商工農で外部からの雇用を維持する取組み、外からの若者やリタイアした方が永住する取組みが必要である。
- ・労働力を確保するためにサトウキビ工場で働いた人が、山形でさくらんぼを収穫し北海道に移る JA の取組みもあり、鶴岡でも考えなければならぬ。
- ・鶴岡に戻りたくなるような、住みたくなるような構想や施策が必要。鶴岡で就職をしたい、農業をしたいと思うような構想がないと、人口減少の歯止めにつながらない。若年層、子どものうちからの何らかの仕掛けが必要と考える。

[林業]

- ・地域内に地元産材を利用する企業の参入や投資を促進するため、伐採～再造林のサイクルが上手く機能し、木材需要に対し安定供給ができる仕組みづくりが必要である。

[商工]

- ・起業や創業に対する支援のほか、ビジネスプランコンテストによるマインド創出や起業家精神の育成が必要である。
- ・新分野、新事業進出や海外取引の拡大、企業連携や産学連携による付加価値創出など、企業の成長力強化が重要である。
- ・企業の新規立地や新たな設備投資を呼び込むにあたり、インフラ整備や、新たな拡張用地の確保が必要である。
- ・ユネスコ食文化創造都市認定を効果的に活用した食品産業の振興が必要である。
- ・チャレンジショップや安く店舗を借りて新しく起業されている方々をよく見かける。その後の状況についても調査し、開店資金に対して支援する仕組みがあると良い。
- ・起業や新規出店された方々を応援する意味でも、新しいものに対して市民のマインドをくすぐるような施策が必要である。

項 目 ○人づくりによる人材の確保	
現状課題	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者は、年平均は約 24 名で、市全体としては増加傾向ではあるが、中山間地域の朝日、温海地域では、それぞれ 1 名程度と深刻な状況である。 ・生産拡大を進めようとしても生産してくれる方を中々発掘できない。労働力が減り、人がいないという非常に悲しい現状である。 ・生産組合が機能していた時代では、集落機能がしっかりしていた。今は受委託が進み、農業者がいなくなり、高齢者しかいないムラ（集落）が多くなり、集落営農をしてもリーダーがいない。 <p>【水産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者数の減少や高齢化が進むなか、30～40 代の若手漁業者が年間漁獲額の上位に入るなど、地域漁業の牽引役として期待されている。 <p>【商工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の中小企業及び小規模事業所では、後継者、担い手不足による事業承継が進んでおらず、廃業の増加が懸念される。 ・地元企業の人手不足が深刻な状況にある。 ・中高生、高専、大学生等の若者やその保護者の地元企業の認知度が低い。 ・就職内定率が高い一方で、就職先のミスマッチによる早期離職も増えている。 ・市内の小規模事業所が減っては、鶴岡の商売は成り立たない。経営を継続し承継していくことが課題。中小企業の人材不足は非常に厳しい問題である。 ・出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって一部改善されつつある。 <p>【観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光分野は、3K イメージなどもあり求職者が少なく、ニーズへの対応、後継者問題等で深刻さが増している。 ・観光事業者間及び行政との連携・調整等を担い、観光産業を牽引する高度専門人材が求められている現状である。
施策の方向	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業のリーダーとなりうる経営マインドを持った後継者の育成が求められる施策である。 <p>【水産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域水産業を牽引し、リーダーとなる担い手の育成・確保に向けた支援制度の拡充が必要である。

	<p>【商工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市での就職を希望する県外在住者と地元企業とのマッチングを継続的に取組む必要がある。 ・企業説明会や企業見学等を通じて、優れた地元企業の周知拡大を図り、地元就職につなげる取組みが必要である。 ・早い時期からの職業観・職業意識の醸成と就職後の定着率向上が必要である。 ・地域産業の基盤である産業人材を育成するために、企業と連携した実践的な職業教育を充実させることが必要である。
<p>項 目 ○交流人口を増やす施策の実施</p>	
<p>現状課題</p>	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園や農家民宿、農家レストランなどは、農業を活かした貴重な観光資源となりうるが、そのポテンシャルを生かしきれていない。 <p>【水産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来型の団体旅行や修学旅行などから、個人・小グループの旅行やテーマ性の強い目的型の観光需要が高まってきている。 ・観光の面で、三瀬、堅苔沢、由良に定置網漁業があり、旅館〇〇さんは体験漁業をさせて好評だと聞いている。どこで体験できるのかという問い合わせが多く、PR・情報提供が不十分である。 <p>【商工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地、中心商店街において賑わい創出・交流人口増を目的としたイベント等（ナイトバザール、寒だら祭り等）を実施しているが、人材不足、実施主体の高齢化が課題となっている。 ・空き家・空き地の増加など、中心市街地では空洞化が進み、まちの活力が低下している。 ・中心商店街のにぎわい創出に向けて、市内にある商店街が集まって、商店街での食べ歩きツアーやお宝発見ツアーなどを企画している。 ・交流人口を増やす施策は、商店街としても必ず取り組まなければならない課題である。 <p>【観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鶴岡」に対する認識度が県内・隣県他市に比べ著しく低く、観光ブランドの構築が進んでいない。 ・戦略的・戦術的な観光施策の推進が求められているが、イベントを中心とした行き当たりばったり型の取組みが中心である。 ・鶴岡までの1次交通（空路、高速道・鉄道等）、域内での2次交通いずれも不十分であり、他観光地との競争力低下につながっている。 ・来訪者の満足感を高めリピーター、移住・定住者の増につなげ、外部

	<p>からの人・財による地域の活性化が求められている現状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光連盟では、地域とお客様の視点を客観的に調査し、そこから戦略を立てているが、客観性がないと合意形成がとれないため、データに基づいてこれから先の鶴岡の観光のことを考えていかななくてはならない。 ・国際社会や国際都市を目指す上で、鶴岡市を訪れようとした時に、英語での情報が少ない。 ・地元で観光事業を行っている目線では気づきにくいこともあるため、これから発掘して磨き上げたら伸びるものは何か、U I Jターンされた方や、外国人、旅行者等の目線も必要となっている。 ・観光の現場での成功例や失敗例などをいろいろな人たちで情報交換し、戦略を一緒に練っていく場、行政・地元・事業者などの立場から現場感覚で話ができる場、意見を吸い上げる場が少ない。 ・二次交通が観光の多様性に決定的な意味を持っており、山間部の遠い場所など、マイカーでしか行けない観光資源は、外国人観光客や運転しない人からは見逃されてしまう。
<p>施策の方向</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に取り組む農業者に対しては、初期投資のリスクを軽減する支援が必要であり、開設後も、農業者だけで客を呼び込むことは難しいことから、集客方法などの経営戦略について、観光関連団体等とも連携した仕組みが必要である。 <p>[水産]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁労体験や加工体験、競りの見学、釣果の加工提供、民泊（民宿）の活性化など、漁村地域の魅力向上を図るとともに、加茂水族館や日本遺産、食文化創造都市など、市の強みを活用した仕掛け作りが必要である。 ・全国の観光客を食べ物や温泉を生かし、日帰りではなく足止めをするための施策や鶴岡市内で、どこに行けば必ず食べられるなどの情報発信の取り組みが必要である。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な企業活動の活性化に応じた受け入れ、インフラ等への整備が必要である。（交通、ホテル、ビジネスサポート産業等） ・U I Jターン者、若者をまちなかに取り込み、居住の場、活動の場、交流の場としての中心市街地の利用を促進していく必要がある。 <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県・庄内エリア DC を好機と捉え、観光による地域づくりにつながる地域資源の磨き上げ、情報発信、地域に経済効果が波及する仕組

	<p>みづくりが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の満足感を高めリピーター、移住・定住者の増につなげ、外部からの人・財による地域の活性化が求められている施策の方向である。
項目	○若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築
現状課題	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸や果樹の生産には、繁忙期や面積拡大の際に「農業労働力」の確保が必要であるが、その確保が難しい現状である。 ・農業と福祉が連携した取組みは、あまり進んでいない。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性が県外に多く流出している状況がある。
施策の方向	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業による雇用確保の観点から子育て世代や高齢者などの活力を取り入れていく仕組み作りが必要である。 ・農福連携を進めるため、障害者が働きやすい環境づくりやマッチングの仕組みが必要である。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性が、出産や育児をしながらでも働きやすく活躍できる環境づくりが必要である。 ・高齢者や障がい者の就労など多様なニーズに対応した就業環境づくりが必要である。 ・将来への不安が大きい非正規から正規社員への転換を推進し、雇用の安定と所得の向上を図る必要がある。 <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的な評価を受けている食文化、精神文化の良さを情報発信し、地域の魅力向上、ひいては来訪者増と、地域活性化に結び付けていく必要がある。 ・恵まれた温泉地を再評価し、入浴効果だけでなく、食、文化、自然環境などと結び付け、トータルな健康増進を提案するなど、温泉地としての差別化が求められる。
項目	○内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承
現状課題	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただちや豆、温海かぶをはじめとする在来作物が60種確認され、豊かな食文化の源泉となっている。特産品となっている品目、消滅が危惧される品目など、その状況は多様である。 ・学校給食への鶴岡産野菜の利用を促進するため、利用率50%を目標

	<p>にして取組んでいるが、29年度の利用率は約38%となっている。</p> <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、皆伐地の減少により、草藪に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。 <p>[水産]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市は庄内おぼこサワラ、紅エビ、鼠ヶ関のエビ、トラフグ、貝類、サザエとかアワビ、岩ガキなど豊富な魚介類があるが、ありすぎてぼやけている。
<p>施策の方向</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在来作物は地域の貴重な資源として、個々の品目ごとに消費拡大策や生産振興策あるいは種子の保存などの戦略的な取組みが必要である。 ・食文化を意識して、学校給食に安全安心な地元農産物を安定的に供給するための仕組みが必要である。 ・産業も大事であるが、地域の自然や文化こそがオンリーワンであり、美田、棚田を守る、森林を守る、美しい形を維持するということが精神的な満足度につながることから、心の満足度を高める取組みも計画に取り込んでいくべき。 <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市に伝わる焼畑文化の本来的な姿である「伐採～地拵えを兼ねた焼畑～再造林」の循環型生産システムに基づいた伝統農法の存続・拡大が必要である。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ食文化創造都市認定を効果的に活用した食品産業の振興が必要である。(再掲) ・kibiso ブランドが定着しつつあるなど、今後、鶴岡の絹産業をけん引するための商品開発や販路拡大を促進する必要がある。 ・羽越しな布をはじめとする伝統的な産業を振興・継承していくため、従事者の確保や技術・技能の継承が必要である。
<p>項目 ○「循環」をキーワードとして重視</p>	
<p>現状課題</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足や高齢化により、畜産農家数、飼養頭羽数が減少しており、耕種農家が、畜産農家の堆肥で飼料作物を生産し、畜産農家はその飼料で家畜を育てる耕畜連携の維持が難しい。 ・市内に10数カ所ある産直施設や地元野菜コーナーを設けているスーパー小売店も多く、地場産野菜を購入しやすい環境づくりが進んでいる。 ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施

	<p>されている。</p> <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。[再掲] ・近年、皆伐地の減少により、草藪に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。[再掲] <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終製品製造企業が少ないため、地域内循環型の産業構造を構築しにくい状況にある。
<p>施策の方向</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自給飼料の有効活用や JAS 法による認定機関である鶴岡市の強みを活かして堆肥を使った有機、特別栽培など環境に配慮した環境保全型農業を拡大に向けた畜産農家と耕種農家との連携が必要である。 ・地産地消は、同じ地域住む生産者と消費者との間での循環であり、今後、さらに利用拡大を進めるために、新たな仕組みが必要である。 ・さらに加工業者と一体となって厳選素材を利用した加工食品を製造し（農工一体）、地域内で販売・消費することで（地産地消）、全てを地域内で完結できる循環型の経済圏と地域内食料自給圏（スマートテロワール）について検証し、地域内での普及について検討が必要である。 ・自給圏を作るというプランを掲げ、JA と行政がタッグを組んだ取り組みの検討も必要である。 ・経済の内部循環をしっかりと構築する必要がある。 <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内に地元産材を利用する企業の参入や投資を促進するため、伐採～再造林のサイクルが上手く機能し、木材需要に対し安定供給ができる仕組みづくりが必要である。[再掲] ・本市に伝わる焼畑文化の本来的な姿である「伐採～地拵えを兼ねた焼畑～再造林」の循環型生産システムに基づいた伝統農法の存続・拡大が必要である。[再掲] <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産品の消費や調達などを促進し、大手企業の事業再編や景気低迷等、外的要因の影響を強く受ける産業構造からの脱却が必要である。 ・経済の循環という市民が地域にお金を落とす仕組みを作っていくべき。
<p>項 目 ○対応から本格的国際都市へのシフト</p>	

<p>現状課題</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での市場調査や販売促進の取組みとして、庄内柿やメロンなどの青果物やその加工品を海外へ輸出されているが、その後の継続的な取引には繋がっていない状況である。 ・農業の国際競争力の強化を図るためGAP認証などが求められているが、国際水準GAPが3件にとどまっている。 ・労働力不足が顕在化しているが、農業分野において、外国人を受け入れている事例はみられない。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスや観光での外国人の来鶴が増加しているなか、コミュニケーションや情報提供の利便性確保への対応が遅れている。 ・出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって一部改善されつつある。(再掲) <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド客の受入にあたっては、知名度のほか、言語、通信環境、宗教・文化的習慣などへの対応の不十分さがネックとなっている。 ・インバウンドを踏まえた国際化へのシフトも課題になっている。 ・国際社会や国際都市を目指す上で、外国の方が鶴岡市を訪れようとした時に、英語での情報が無い。
<p>施策の方向</p>	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、米は香港、中国を輸出先に想定するなど、輸出に適した品目や輸出相手先などの絞り込みを行い、輸出を推進するために戦略的な取組みが必要である。 ・制度のメリットを理解を促すなど、GAP認証の拡大を図るための取組みが必要である。 ・将来的な労働力不足への対策のひとつとして、今後、外国人実習生制度などによる外国労働力の受け入れについての検討が必要である。 ・輸出米は日本国内で売るより安いのが、日本の人口が減るので、輸出米をこれからも増やしていくことが必要である。輸出は個人では難しく、組織的に取り組めるようサポートが必要である。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者や技術者のほか、人材不足に対応した労働者等、海外からの流入が増加傾向にあり、言語、風習、生活環境等の違いに対応した体制づくりが必要である。
<p>項目 ○コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現</p>	

現状課題	<p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心商店街は高齢化と担い手不足により組織自体の弱体化が顕著だが、組織・団体の成り立ちの違いもあり、連携・ネットワーク化が進んでいない。 ・高齢化が進み、商店街だけでは立ち行かなくなっている現状がある。 ・コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現は、商店街として必ず進めていきたいと思っている。
施策の方向	<p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地で増加している「空き地」や低・未利用地の有効活用と魅力ある商店街づくりを進める必要がある。 ・高齢者、障がい者などの買い物が困難な方や、商店等が立地しない地域等での生活利便を確保するため、地元事業者によるサービス提供体制の強化が必要である。 ・施策を進めていく上で、農業や林業、水産業等異業種の方々とのネットワークが必要である。 <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡全体も大切ではあるが、自らの地域からしっかり考えていかなければならない。鶴岡はかなり広く、それぞれの地域が個性をもっている。コンパクトな地域がネットワークでつながることで鶴岡の個性を作っていくものだと考える。
項 目 ○オンリーワンを目指すプロジェクトの実施	
現状課題	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ食文化創造都市や食と農の景勝地に認定されているが、その強みを農業分野で活かしきれていない。 ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施されている。[再掲] ・サムライゆかりのシルクとして日本遺産に登録された絹産業の一貫工程のうち、養蚕業が途絶えている現状である。 <p>[水産]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者自らの取組みの成果により、トラフグや庄内おぼこサワラなどは高品質魚として中央市場からも高評価され、ブランド化されている。
施策の方向	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ食文化創造都市、食と農の景勝地に認定されている本市の特徴を活かし、本市農業の付加価値を高めていく取組みが必要である。 ・さらに加工業者と一体となって厳選素材を利用した加工食品を製造し（農工一体）、地域内で販売・消費することで（地産地消）、全てを地

	<p>域内で完結できる循環型の経済圏と地域内食料自給圏(スマートテロワール)について検証し、地域内での普及について検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採算性をふまえた養蚕業の再開の検討が必要である。 ・今までしたことがない新しいことに取り組むのは難しいので、例えば、食文化創造都市もキーワードにするなど、鶴岡の人たちが日頃やっているもので得意としていること、経済循環が生まれるものを考えるのも重要である。 <p>[水産]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、未利用魚の商品化や食文化創造都市と連携した新たな消費拡大の取り組みが必要である。 <p>[商工]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新分野、新事業進出や海外取引の拡大、企業連携や産学連携による付加価値創出など、企業の成長力強化が重要である。(再掲) ・各商店街単体でのイベント実施だけでなく、多様な団体や学生等との連携により、鶴岡発の取組み・事業・イベント等の企画などの創出が必要である。 <p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギネス認定クラゲ展示種類数世界一の加茂水族館が、これからも多くの方に受け入れられるよう、定期的なリニューアル等魅力の増進が必要である。
--	---

鶴岡市総合計画審議会 第2回市民文教専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年6月1日(金) 午前9時30分から
- 会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
- 委員発言の概要

着眼点に対する施策の方向について

挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

- ・鶴岡市には国内外に誇れる産業等が少ないと思う。今は先端研などが新しい事業を行っていて見事だと思う。鶴岡市では先端研を応援すべき。
- ・一般の方々、県外からわざわざいらした方でも、スポーツ施設等の使用料金や使用状況をいつでもどこでも誰でも使えるということを市民の方、またネットでも広く知っていただけたらいい。
- ・企業誘致のための税の軽減や用地価格の厚遇等の制度の総点検と見直し、どのような投資が鶴岡市にとって必要かを検討すべき。
- ・人手不足の対応として、例えば、農業、介護、サービス業などで、ロボット、AI、ドローンの導入を進めてみたらどうか。

人づくりによる人材の確保

- ・今、地域活動のコーディネーター役として地域と行政の結び役としての役割が重要になってきている。コミュニティセンターと地区担当職員が連携して地域の課題解決、地域の組織運営支援に取り組んでいくべき。人材確保という点については、その人の生活の保障が必要である。コミュニティセンターが地域の拠点として、住民の拠りどころとして活動できるような小さな拠点づくりを活用しながら行政支援が必要になると思う。
- ・人づくりは100年の計、今まで地道に行ってきた鶴岡独自の教育があるので、新たに違うことをするのはではなく、地道な活動（致道館教育など）の継続が大事だと感じている。あらたな取り組みが必要かどうかは疑問である。
- ・市内だけでなく郊外地の地域づくりがマンネリ化していると感じる。若者の意識が多様化している中で自治組織のさらなる充実が必要。具体的には思いつかないが、地区担当職員がいるので連携していくのがいいのではないかな。
- ・魅力ある人材を作っても外部に流出してしまうのではないかな。優秀な人材が活躍できる場所が少ない。どのような人材を育成するのが地域にとって良いのか考えるべきだし、基盤産業で優秀な人材が欲しいというのがあるのではないかな。後継者も育てていくべき。
- ・人づくりは、学校教育に負うところが大きい。現在の学校は、これまでの指導に加えて、知識を活用する能力の向上、英語教育、道徳教育、情報教育、プログラミング教育等々、多種多様な教育への対応が求められるとともに、発達障がいの子どもやその保護者対応など、山積する教育課題に直面して

いる。働き方改革の旗は振られているものの抜本的な改革の方向性は全く見えていない。学校教育支援員、外国語サポーター等の人的な支援の拡充がなければ、正常な学校運営が出来ない。

交流人口を増やす施策の実施

- ・市街地へ中古住宅の賃貸化、産業の発展、飛行機代を減らすなど住みやすく、鶴岡市内に留まってくれるような街づくりにしていくのがいいのでは。
- ・高速道路や鉄道などといった、交通網の早期の整備が必要、早い実現を。鶴岡市の独自の産業が振興し発展することで交流人口も増えるのでは。
- ・高齢者の移住受け入れについても良く考えるべきではないか。介護の問題も発生してくると思われるので、将来超高齢化社会になってしまう。現在の高齢者はわりと生活に余裕を持っている人が多い。非常に満たされている中で、これ以上さらに良くしていかなければならないのか。
- ・もう少し文化財活用について考えていただきたい。今後国際化ということもあるので、高速交通、ネットワークの充実、2500mの滑走路の整備とか山形自動車道の全線開通、こういったものも観光の振興につながるだろうし、ますます青少年のここにいたい、戻ってきたいという気持ちにつながると思う。
- ・二つの日本遺産である、「出羽三山」、「松ヶ岡」を両輪に鶴岡の魅力を最大限強調する必要がある。
- ・魅力的な観光、既存の遺産はもちろん生かしつつ、新たなアクティビティ、大自然を生かしたレジャーを創設する。
- ・タクト鶴岡、アートフォーラムの事業の充実を図るとともに、市民が気軽に活用できるようにしてほしい。

若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

- ・高齢者と言う文言が大変気になった。鶴岡でも高齢化は進んでいるし、今問題になっているのは団塊の世代の問題もあるし、健康寿命の推進を図っていくというのがある。具体的にどのようにするかという生涯スポーツの推進に力を入れるべきだと考えている。地域のスポーツクラブの育成が大事。現在の加入率が1%~2%、地域のこれからの10年を見据えた場合、生涯スポーツが大事になってくるので行政と連携して、3%の加入率を目標に取り組んでいくことが必要。
- ・郊外地域でも高齢者のみの世帯（ひとり暮らし、二人暮らしが増えている）が増えており交通手段も無く外出が困難。現在は隣近所と協力している所もあるが、今後そのような地域が増えていくと考えられるので低額な小型バスの運行などが必要になる。
- ・津波対策からの観点から、沿岸部には防災行政無線があるが、設置場所の関係から聞き取りにくい所がある。特に湯野浜地区。海水浴客などもたくさんいるので早急な改善をしてほしい。有線で防災行政無線が付いているものがあるが、30~40年くらいたち劣化が目立っている。更新の補助をお願いしたい
- ・スポーツ活動は健康の保持増進、青少年の健全育成、地域づくり、アスリートの活躍は市民へ感動を与え勇気をもたらす効果もあり、一層の活動環境づくりへの支援をお願いしたい。
- ・不登校や引きこもりの児童生徒を減少させることは、将来の労働者や納税者の確保につながる。教育

相談や特別支援教育の充実、加えて、適応指導教室の充実や公設民営型のフリースクールの設置など、多様な学びの確保が必要と考える。

- ・閉校した学校施設の有効活用がなかなか進まないことに心を痛めている。難しいこととは思いますが、芸術家・作家・研究者を目指す若者に無償又は格安で提供し、U I J ターンの促進と定住者の拡大につなげることは出来ないものか。
- ・親戚の家に行くようなイメージの年代交流、老人が子どもに宿題を教えたり、料理を教えたりする場所として公民館や空き家を活用出来ないか。
- ・首都圏の大学への進学にとってもお金がかかるので、子どもも作れない人もいる。資金援助や寮がほしい。
- ・生徒数の減少に伴い、好きな部活動をやれない中学生が出てきている。
- ・鶴岡市にはインパクトのある子どもの遊び場がない。SORA I の完成に期待している。
- ・若い人には余裕が無い（時間的余裕も金銭的余裕も）人が多い。例えば子育て世代の人だと土日はスポーツ少年団に時間をとられて、平日は仕事をしているので、若い人は大変。

内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

- ・歴史を伝えることは大事だが、時代錯誤になってはいけない。そういう意味ではきちっとした形で歴史資料・文化財・文化遺産をしっかりと発信していくのが必要。どうしても文化と言えなにかあれば切り捨てられるのだが、文化も経済も両輪で調和して初めてより良い社会になると感じている。地域の事を大切にする環境の整備も必要である。
- ・温暖化が進行しているので、庄内の沖合では魚がとれなくなったものもあれば、とりやすくなったものもある。環境の変化が激しい。農業についての市としての考えが見えてこない。考えがあるのなら教えてほしい。
- ・外国人から見た、鶴岡の自然と歴史、文化の価値を積極的に海外に向けて発信する施策を積極的に展開していくべき。現在、観光物産、食文化推進等で活躍している人材の意見や発想を大切にするとともに、さらに外国人を雇用していくことが必要ではないか。
- ・文化財のデジタルアーカイブ促進、学校のPC等で子供たちが気軽に使える環境を作る。
- ・豊かな森林の保全継承のため、スギ人工林からの広葉樹林へ転換できないのか。

「循環」をキーワードとして重視

- ・化石燃料の多用は良くないと思う。鶴岡市でも再生可能エネルギーやゴミ処理施設など地域の生活環境に配慮してほしい。
- ・最終処分場がすでにもう数年でパンク状態になると聞いている。分別方法はもっと細かくできるだけゴミを出さないように早めに切り替えていく必要がある、このまま高齢化が進むと分別の細分化が不可能になってしまうので、早いうちにもっと分別を進めるべき。
- ・焼却炉が更新されると聞いているが、焼却炉の熱を熱交換機で地域冷暖房を模索する等、出来るだけエネルギーを無駄にしないようにしていただきたい。

対応から本格的国際都市へのシフト

- ・国際都市と名乗るからには、人口や経済や政治など、さまざまな条件が必要となる。それで初めて市民の生活が豊だということができ、国際都市と名乗ることができると思う。広がり過ぎている気がする。国際都市と名乗る前に足元を固めた方が良いのではないか。それを基にしてさまざまな施策を考えて行けばいいのではないか。
- ・いつからシフトしているのかという疑問がある。鶴岡の特徴が何かと考えた時に「いろいろものがあること」と言うのが考えられる。農業、林業等色々あって海もあり山もありと大変だとも思うが、それが良いところではないかと思う。いろんな魅力的な資産があるということを考えないといけない。まちづくりで期待することは暮らしていて楽しい、この街に住んでいてよかったと思うこと。今ある魅力をアピールして、いかに周りから人を呼び込んでくるのか、豊富な資産があるので、整理して活かしていくのが大事だと感じる。強みを更に強くしていくことが必要。
- ・英語学習や、外国人子女の学びの場の確保については当然実現してほしい。
- ・ニューカレドニア、ニューブランズウィックなどの姉妹都市や友好都市などへの生徒の派遣・留学・交流を拡大すべき。また、交流する都市自体を増やすことも検討すべき。
- ・他の都市との人的な交流から経済交流へと拡大・発展させていくことが期待される。

コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現

- ・コンパクトなまちづくりについて、空洞化はもう進んでしまったものだと考えている。きちっとした制度を設けないともたなくなるのではないか。郊外地の課税、中心部の再開発に優遇するといったことを考えて行かないといけない。
- ・今後、中心市街地は少子高齢化、人口減少により、空き家・空地が大規模に発生すると想定される。都市景観や都市計画上の課題となるのは避けがたく、市街地縮小時代の対策が急務である。

オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

- ・松ヶ岡に行く機会があった。観光面で頑張っていると思う。日本遺産にもなったのでこれをもっと生かすために、地元の鶴岡市民にもっと PR をしていく必要があるのではないかと思う。口コミでいろんな人に伝えるためにも地元の人が必要。食文化の面も含めて地元の市民にもっと PR していく必要があると感じる。10年かけてでもやる必要がある。
- ・松ヶ岡に対する交通網の整備を考えてほしい。どうやって行けばいいのか分かりにくいので、誰でも行けるような状況にしてほしい。
- ・計画を立てるときはなんでもまんべんなく、そつなく立てているが、より具体的な計画の方が市民にはわかりやすいのではないか。何が一番重要なのか、シンプルな計画が大事だと思う。
- ・鶴岡のラーメン文化はすばらしいので、昔ながらの中華そばを鶴岡のソウルフードとして発信した方が良い。

少子高齢化社会への対応

- ・少子高齢化社会によるデメリットが具体的でない。例えば10年後に介護保険料がどのくらいかわって

今のサービスが継続できるのかなど、市民が理解していかないといけない。市民に知ってもらうことが必要。

既存の商業形態の変化に対応

- ・商店街の衰退が進み、今は通信販売も増加してきており、商業は劇的に変わると思う。大型店舗も売り上げが減少しているし、そういったことへの対応も具体的に考えていかないといけない。都市計画も次々に変わっていくはず。

小規模災害時の対応の強化

- ・先日、温海地域の土砂災害では、公民館が避難所となったが、食料の確保、人員配置が難しく、どこが何の役割するのか、わかりづらかった。自主防災主体での避難所運営をする際の訓練の実施や、災害発生場所の見守り担当機関や避難所に常駐する市職員の確保、消防団、ライフライン業者とのミーティングの必要性を網羅できるような訓練の実施が必要である。

防災食料の備蓄

- ・規模災害時、提携先より食料が届くまでのつなぎ分の食料の備蓄を市負担で実施してほしい。小規模災害時、自主防災の全額負担で避難所運営するのは問題がある。

鶴岡のPR

- ・畑を耕作している人が多く、同じ時期に同じものを作って余らせている。首都圏や市内の食に困っている人に新鮮な野菜をおすそ分けして、フードバンク事業として鶴岡をPRしたらどうか。
- ・友人の料理人に良い食材があったら紹介してほしいと言われるが、なかなか届けられなくて困っている。そんな時住民が市に相談して、セールスマンを料理人の所へ派遣できないか。市民のネットワーク網はすごいので、市民もセールスマンとしてアピールしやすくなる。

その他

- ・鶴岡市は市街地から山間地域そして海岸地域と広範な地域の自治体であり、それぞれの地域に住み続けてきた意義と役割を考えれば、安心して住み続けられる環境と行政の支援が必要である。
- ・9つの着眼点について、言葉が難しいものがありわかりづらかった。行政のみなさんからすれば通常使用している言葉だと思うが、立場によってはなかなか慣れない言葉もあって、一つずつ調べないと分からない所もあった。市民が見てイメージがわくようなものでないと。もっと単純で簡単なキャッチフレーズのようなものでいいのではないか。
- ・新しいものを作り出すことはなかなか難しいと感じている。ただ、既存のものを組み合わせると何か新しいものを出来ないかという点で、考えてみたらどうだということを職場でも言っている。組み合わせ、コラボ、そういった視点が今後非常に大切になる。
- ・社会的なリーダーと若い世代が語り合う機会を大切にしたい。若者の考えを受け止め、抱き込みながら地域社会づくりを進めたい。

これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する
市民文教専門委員会での協議・意見

項目 挑戦でき、人を惹きつけ投資を呼び込める環境の整備	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外に誇れる産業等が少ない。 ・市外の方でも、鶴岡市の体育施設等を利用できることが知られていない。 ・企業誘致のための制度が不足している。 ・各業種における人手が不足している。 ・畑を耕作している市民が多いが、同じ時期に同じ農産物を作って余らせている。 ・首都圏在住の友人の料理人に良い食材があったら紹介してほしいと言われるが、旬の時期に届けることができない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應先端研は、最先端技術の発明、大手企業や研究機関の誘致などすばらしい成果をあげ、鶴岡市が国内外に誇れる唯一の機関であるため、引き続き応援する。 ・スポーツ施設等の利用方法等について、ネットワーク等を活用して広く周知する。 ・企業誘致を進めるため企業に対する既存の税の優遇や制度を見直す。 ・人口減少による人手不足を逆手にとって、労力が必要な農業・介護・サービス業等でロボット化、AI、ドローンを導入する。 ・首都圏や市内の食に困っている人に新鮮な野菜を分けて、フードバンク事業として鶴岡をPRする。 ・首都圏在住の市職員が鶴岡のセールスマンとして活動するなど、市民のネットワーク網を生かし鶴岡をアピールする。
項目 人づくりによる人材の確保	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に必要なコーディネーター機能が果たされていない。 ・人づくりに向けた新たな取組みがされていない。 ・地域づくりがマンネリ化している。 ・地域で優秀な人材が活躍できる場所が少なく、人材が流出している。 ・人づくりは学校教育に負うところが大きいですが、英語教育、道徳教育、情報教育など多種多様な教育への対応、また、発達障がいの子供等への対応など教育課題が山積している。

<p>施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のコーディネーター役として、コミュニティセンターの職員と地区担当職員が連携し、地域の課題解決や地域の運営支援に取り組む。 ・人づくりは100年の計であり、今まで地道に行ってきた鶴岡独自の教育があるので、新たに違うことをするのではなく、地道な活動を継続する。 ・若者の意識が多様化している中で、行政等との連携を強めるなど自治組織の役目をさらに充実させる。 ・どのような人材を育成するかを地域が考え、後継者を育てる。 ・学校教育支援員、外国語サポーター等の人的な支援を拡充する。
<p>項目 交流人口を増やす施策の実施</p>	
<p>現状課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕方なく住むのではなく、住みたくて住むまちにしたい。 ・交通網の整備が遅れている。 ・高齢者の移住受け入れは市民の介護負担に影響を与える。 ・文化財が活用されていない。 ・観光のPRが不足している。 ・楽しめるようなアクティビティがない。
<p>施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅の賃貸化、産業の振興、航空運賃を安くするなど住みやすく、鶴岡市内に留まってくれるようなまちをつくる。 ・交通網の整備を進め、独自の産業を振興し、交流人口を増加させる。 ・国際化に伴う交流人口の増加に対応するため、高速交通網・ネットワークの整備を進める。 ・日本遺産である「出羽三山生まれかわりの旅」「サムライゆかりのシルク」を両輪に鶴岡の魅力を発信する。 ・魅力的な観光資源を生かしつつ、新たなアクティビティや大自然を生かしたレジャーを創設する。 ・タクト鶴岡は世界に誇れる資源なので、市民が気軽に発表の場として活用できるようにするなど、市民の満足度の向上を図る。 ・タクト鶴岡、アートフォーラム事業を充実させ、市内外へアピールする。
<p>項目 若者、子育て世代、弱者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築</p>	
<p>現状課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会によるデメリットが具体的に示されていない。 ・少子高齢化が加速し、介護・医療費などの社会保障費が増加する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみ世帯が増加し、交通手段も無く外出が困難である。 ・スポーツ活動環境に対する市民周知が図られていない。また、スポーツ設備の整備が進んでいない。 ・不登校、引きこもりの子供が学べる場や機会が限られている。 ・閉校した学校施設が有効に活用されていない。 ・地域における世代間交流が少ない。 ・首都圏の大学への進学にお金がかかるなど経済的負担が出生率の低下に影響を及ぼしている。 ・生徒数の減少が部活動のチーム編成に影響し、好きな部活動を選べない中学生がいる。 ・子どもの遊び場が少ない。 ・子育て世代の若い人には時間的また金銭的余裕が無い ・社会的なリーダーと若い世代が語り合う機会が少ない。
<p style="text-align: center;">施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在から将来にわたる年金や介護サービスについて市民に周知し理解を得る。 ・高齢化社会では健康寿命の延伸は重要なので、生涯スポーツの推進に力を入れる。 ・交通弱者を支援するため、低額で集落内に迎えにいける小回りができる小型バスを運行する。 ・不登校、引きこもりの減少が将来の労働者や納税者の確保に関係することから、教育相談や特別支援教育の充実、適応指導教室の充実や公設民営型のフリースクールの設置など、多様な学び場を確保する。 ・芸術家・作家・研究者を目指す若者に無償又は格安で提供し、U I J ターンの促進と定住者の拡大につなげる。 ・老人が子どもに宿題を教えたり、料理を教えたりする場所として、公民館や空き家を活用する。 ・進学に伴う経済負担の軽減のため、大学進学者への資金援助などの補助制度等を創設する。 ・子どもの遊び場が少ないため、新しい遊び場を整備する。 ・地域振興ビジョンを検証し、広範な市域の中で、安心して住み続けられる環境と行政支援を充実する。 ・年代や業種を越えた交流の場を設けるなど、コラボレーションによる新しい発想やアイデアをまちづくりにいかす。
<p style="text-align: center;">項 目 内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承</p>	

現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化が漁業に影響を与えている。 ・ 鶴岡の自然や文化・歴史の素晴らしさの発信が不十分である。 ・ 文化財・美術作品のデジタルアーカイブ化が進んでいない。 ・ 森林のスギ林からブナ林への転換が図られていない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に対する理解を深めるため正しい歴史を伝える。 ・ 文化と経済が両輪で調和して初めてより良い社会になることから、きちっとした形で、歴史資料・文化財・文化遺産をしっかりと発信する。 ・ 外国人から見た、鶴岡の自然と歴史、文化の価値を積極的に海外に向けて発信する施策を積極的に展開する。現在、観光や食文化等で活躍している人材や外国人の意見や発想を大切にする。 ・ 文化財のデジタルアーカイブ化を促進し、学校のパソコン等で子供が気軽に見て、文化財やアートにさらに興味を持つことができるような環境を整備する。
項目	「循環」をキーワードとして重視
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの分別の細分化ができていない。 ・ 高齢化が進むと、分別の細分化が難しくなる。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化石燃料は環境に負荷を与えるので、再生可能エネルギーを導入する。 ・ 焼却炉の熱を熱交換機で地域冷暖房に活用するなど、エネルギーの効率化を進める。
項目	対応から本格的国際都市への移行
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際都市としての受け入れ態勢や環境の条件が満たされていない。 ・ 鶴岡の特徴が海外への情報発信に生かされていない。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際都市に向けて足元を固め、その後、様々な国際都市に向けた施策を進める。 ・ 鶴岡には、農業、林業等色々あって海も山もあり、それが良いところである。様々な魅力的な資源があるということを認識し、今ある魅力をアピールし、海外から人を呼び込む。 ・ 人的交流から経済交流へと発展させていくために、姉妹都市や友好都市などへの生徒の派遣・留学・交流を拡大する。

項目 コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化や人口減少によって、中心市街地では空き家・空地が大規模に発生するなど空洞化が進んでいる。 ・ 通信販売が増加するとともに商店街の衰退や大型店舗も売り上げが減少するなど商業の形態が劇的に変わっている。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトなまちづくりについて、郊外地の課税や中心部の再開発事業を優遇するなど市街地縮小時代に向けた対策を講じる。
項目 オンリーワンを目指すプロジェクトの実施	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民に観光面のPRが浸透していない。 ・ 松ヶ岡開墾場への2次交通が整備されていない。 ・ 何でも満遍なく、そつのない計画は具体的でないため市民にとって分かりにくい。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口コミで外の人に伝えるためには市民が知る必要がある。食文化も含めて市民へのPRを強化する。 ・ 交通網を整備する。 ・ 鶴岡のラーメン文化は素晴らしいので、昔ながらの中華そばを鶴岡のソウルフードとして発信する。
項目 災害時の対応強化	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先日の温海地域での土砂災害時に公民館が避難所となったが、食料の確保、人員配置が難しく誰が何の役割をするのか示されていない。 ・ 災害発生時に提携先から食料が届くまでのつなぎ分の食料を、自主防災組織が自己負担で備蓄するには経済負担が大きい。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織による小規模災害時の避難所運営訓練が必要である。 ・ 行政が主体となって備蓄する。
項目 津波対策の強化	
現状課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸部に設置されている防災行政無線に関して、湯野浜地区など設置場所によって聞き取りにくい地域がある。また、有線の防災行政無線も30~40年経過し劣化が進んでいる。
施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災行政無線の改善、更新を進める。

本市の『目指す都市像とまちづくりの基本方針』の素案
～各委員が考案した『目指す都市像・まちづくりの基本方針』～

① 大川奈津子委員

- ・つるおか愛着人口増加宣言
～CHALLENGE！地域で『つながる』から未来へ『つなげる』へ～

③ 小沢 亙委員

- ・「食と生のまち」

⑤ 鈴木淳士委員

- ・こどもからおとな・高齢者まで、継続した『サポート』があるまち 鶴岡
- ・こどもからおとな・高齢者まで、必要とする『サポート』が受けられるまち 鶴岡
- ・12万8千市民に12万8千とおりの健康で豊かな『しあわせの形』があるまち 鶴岡

⑥ 清野康子委員

- ・“活きるまち 鶴岡”
～たがやそう地域、育てよう人、咲かせよう未来～
- ・“魅せるまち 鶴岡”
～活かそう風土、伝えよう世界へ、つなげよう未来へ～
- ・“たがやそう鶴岡、育てよう人、咲かせよう未来”
～つながろう世界と つなげよう未来へ～

⑦ 瀬尾利加子委員

- ・自らが住みつづけたいまちのカタチを自らが考え、自らが支えるまち 鶴岡

⑨ 高谷時彦委員

- ・めざす都市像：

交流から生まれるまちの賑わいと、豊かな自然を基盤とした営みが生み出す個性豊かなふるさとの風景のもとで、誇りと尊厳、寛容性をもって、多様な人々とともに心豊かに暮らす田園環境文化都市：鶴岡。

- ・まちづくり基本方針：

市民（市長？）は、田園環境文化都市鶴岡の実現のため、地域の自然と歴史文化を映す個性的な風景を創造的に継承発展させるとともに、もの/人が地域内で循環する持続的な営みを育て、同時に多様な人々の活動を包摂する、チャレンジ精神に満ちた地域社会をつくるためにソフト、ハードの両面から努力を続けるものとする。

⑩ 松本政裕委員

- ・すべての年代の人が安心して暮らせる、人が集まる「まち」

⑪ 丸山絢子委員

- ・先人の智慧を活かした農文化、食文化の推進
- ・自然・くらし・ひと 総（創）循環型都市の実現
- ・多文化共生都市に向けた人づくり
- ・オンリーワンを目指すプロジェクトの始動

⑫ 大和匡輔委員

- ・歴史文化をたて糸に、時代をひらく志を横糸に、未来を織り上げて行く人に優しいまち 鶴岡
- ・温故知新 進取の精神が感じられるまち 鶴岡

⑬ 山中大介委員

- ・自然と営み歴史と暮らす、挑み続ける街、鶴岡

⑭ 渡部志津委員

- ・ユニバーサルデザインの確立と無限のチャレンジで、笑顔の連鎖が生まれる 私の誇り 城下町つるおか